

きた むかえ

# 北向遺跡

## 発掘調査報告書

—市道樅山小学校正門線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

平成18年3月

山形市  
山形市教育委員会  
山武考古学研究所



## 序

山形市は、山形盆地の南部に位置し、馬見ヶ崎川や藏王連峰など水と緑に恵まれた自然豊かな環境にあります。東の奥羽山脈には、平安時代以降、慈覚大師の開基と伝わる国指定名勝・史跡「山寺」が所在し、市内の中心部には戦国武将最上義光の居城であった国指定史跡「山形城跡」が所在するなど、山形県内はもとより東北の中心的地域として古くから栄えてきました。

北向遺跡は、市北東部楯山地区に所在する平安時代及び中世の遺跡です。調査では、平安時代の堅穴住居跡や当時使用された土器などが発見されました。また本遺跡は、(財)山形県埋蔵文化財センターにより2次にわたる調査が実施されており、同様の当時の生活の痕跡が確認されております。

市内には、国指定史跡「嶋遺跡」など、埋蔵文化財と呼ばれる地中に埋もれた文化財が380箇所以上確認されております。これらの文化財は、郷土の歴史や文化を理解する上で、欠くことのできない市民共有の歴史的財産となっています。

こうした状況のもと、近年は、市内各所において住民福祉の向上を目的とした各種社会整備に関する開発事業が増加しており、埋蔵文化財保護との調整の結果、遺跡の発掘調査に至る場合が多くなっています。また、国指定史跡「山形城跡」などの保存や整備を目的とした発掘調査も継続されているところです。

最後になりましたが、調査にあたって、埋蔵文化財の保護に特段のご理解をいただき、発掘調査に多大なご協力をいただきました事業者や工事関係者の皆様並びに関係各位に、厚く御礼申し上げます。

平成18年3月

山形市教育委員会  
教育長 大場 登



## 例 言

- 1 本書は、市道楯山小学校正門線道路改良工事に係る「北向遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 調査の概要は下記の通りである。

遺跡名	北向遺跡（きたむかえいせき）
所在地	山形市大字風間字北向・大字青柳字一本木
調査期間	発掘調査 平成17年10月31日～平成17年12月28日 整理調査 平成18年1月23日～平成18年3月31日
調査面積	900m <sup>2</sup>
調査依頼者	山形市建設部河川道路整備課
調査機関	山形市教育委員会 山武考古学研究所
調査指導	國井 修（山形市教育委員会社会教育課文化財保護係 主事）
調査担当者	桐谷 優 長谷川一郎 黒岩拓也（山武考古学研究所員）
- 3 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の諸氏及び諸機関からご指導・ご協力を賜った。記して感謝申し上げる。（敬称略）

山形県村山総合支庁建設部道路課	財団法人山形県埋蔵文化財センター 植松暁彦
財団法人山形県埋蔵文化財センター 伊藤成賢	財団法人山形県埋蔵文化財センター 今田秀樹
- 4 発掘調査及び出土遺物の整理にあたっては、以下の方々からご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。（敬称略）

芦名久子 石垣勝幸 伊藤圭子 伊藤省三 大貫文義 栗原清子 栗原武夫 笹利幸
三部秋夫 深瀬美貴子（現地調査）
池野恵理 大関美穂 滝口幸子 佐藤京子 根本己春 根本時子 馬渕恵美子（整理作業）
- 5 出土遺物及び調査記録類については、山形市教育委員会で一括して保管している。

## 凡 例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は以下の通りである。

S I : 穴住居跡	S A : 櫛列	S D : 溝跡	S K : 土坑	S P : 独立した柱穴	E P : 遺構内の柱穴	E K : 遺構内の土坑
------------	----------	----------	----------	--------------	--------------	--------------
- 2 遺跡位置図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は座標北を示す。
- 3 遺構実測図は、1/30、1/60、1/200の縮尺で採録し、各々スケールを付した。
- 4 遺物実測図・拓影図は、1/3、1/4の縮尺で採録し、各々スケールを付した。
- 5 遺構実測図中では、床硬化面を一点鎖線、床下の掘り込みを破線で表した。
- 6 遺物実測図中の土器については、断面黒ベタが須恵器、網点が赤焼土器、白抜きが土師器を表し、内面のスクリーントーンは、内面黒色処理を表す。
- 7 遺構実測図中のスクリーントーンは火床面を表す。

- 8 遺物観察表における（ ）内数値は、図上復元による推計値を示す。
- 9 遺構・遺物番号は、本文・表・挿図・写真図版とも一致する。
- 10 写真図版の遺物の縮尺は任意である。
- 11 基本層序及び遺構覆土の色調記載については『新版標準土色帖』（小山・竹原：1997）に掲る。

## 目 次

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	2
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	3
III 調査の方法と経過	6
1 調査の方法	6
2 調査の経過	6
3 基本層序	9
IV 検出された遺構と遺物	10
1 遺跡の概要	10
2 検出された遺構と遺物	10
(1) 堅穴住居跡	10
(2) 構列	14
(3) 溝跡	14
(4) 土坑・ピット	14
V 遺構外出土遺物	16
VI まとめ	16

抄録

## 挿 図

第1図 調査概要図	第13図 S I 1030
第2図 遺跡の位置と周辺遺跡	第14図 S I 1031
第3図 北向遺跡調査区全体図	第15図 S I 1032
第4図 北向遺跡基本層序	第16図 S I 1033
第5図 北向遺跡遺構配置図	第17図 S I 1035
第6図 S I 1002	第18図 S I 1034・1037
第7図 S I 1003	第19図 S I 1036
第8図 S I 1004	第20図 S I 1051
第9図 S I 1004カマド	第21図 S A1057、S D1019・567、S K1006・ 1012・1021～1024、1038～1043
第10図 S I 1005	第22図 各ピット
第11図 S I 1029	第23図 S I 1002出土遺物
第12図 S I 1029カマド	

第24図	S I 1003・1004出土遺物	第29図	S I 1034出土遺物（2）
第25図	S I 1004・1005・1029出土遺物	第30図	S I 1034～1036・1051、S D1019出土遺物
第26図	S I 1029・1031出土遺物		
第27図	S I 1031～1034出土遺物	第31図	S D1019、S K1006・1021・1043、S P1025出土遺物、遺構外出土遺物
第28図	S I 1034出土遺物（1）		

## 表

表1 周辺遺跡一覧表

表2 北向遺跡ピット一覧表

表3 北向遺跡各遺構土層注記表

表4 北向遺跡出土遺物観察表

## 写真図版

- |     |  |  |  |
|-----|--|--|--|
| 図版1 | 1. 調査区南東寄り全景<br>2. 調査区南東寄り全景<br>3. 調査区北寄り遺構確認状況全景<br>4. 基本堆積土層（B）<br>5. S I 1002全景   | 4. S I 1034カマド完掘<br>5. S I 1034カマド掘り方<br>6. S I 1036完掘<br>7. S I 1051完掘<br>8. S A1057（柱穴列）全景 |  |
| 図版2 | 1. S I 1002カマド<br>2. S I 1002カマド掘り方<br>3. S I 1003完掘<br>4. S I 1003カマド完掘<br>5. S I 1003掘り方<br>6. S I 1004完掘<br>7. S I 1004カマド<br>8. S I 1004完掘 | 図版5  | 1. S D1019完掘<br>2. S K1006遺物出土状況<br>3. S K1012完掘<br>4. S K1021遺物出土状況<br>5. S K1023完掘<br>6. S K1039完掘<br>7. S K1042完掘<br>8. S K1043完掘 |
| 図版3 | 1. S I 1005完掘<br>2. S I 1005石組<br>3. S I 1005石組掘り方<br>4. S I 1029完掘<br>5. S I 1029カマド完掘<br>6. S I 1030完掘<br>7. S I 1031完掘<br>8. S I 1031出土遺物近景 | 図版6  | 1. 出土遺物（1）   |
| 図版4 | 1. S I 1031カマド<br>2. S I 1033完掘<br>3. S I 1034完掘   | 図版7  | 2. 出土遺物（2）   |
|     |  | 図版8  | 3. 出土遺物（3）   |
|     |  | 図版9  | 4. 出土遺物（4）   |
|     |  | 図版10   | 5. 出土遺物（5）   |

## I 調査に至る経緯

北向遺跡は、平成 14 年度に新規に登録された遺跡である。発見の契機は、山形県が実施する臨時道路整備事業一般県道東山七浦線整備事業に係り山形県教育庁社会教育課文化財保護室が実施した分布調査による。山形県では財團法人山形県埋蔵文化財センターに委託し、県道事業範囲について、これまで 2 次にわたる調査が実施された。調査は平成 15 年度に第 1 次として 1170m<sup>2</sup>、平成 17 年度に第 2 次調査として 900m<sup>2</sup>が調査された。その結果、8 世紀後半から 9 世紀代の堅穴住居跡や中世の遺物が確認されている。特に第 1 次調査では、袋状鉄斧、金属製紡錘車、鎌などの金属製品が豊富に出土している。なお、県道用地については、未調査部分が残っており財團法人山形県埋蔵文化財センターによる発掘調査が今後も進められる予定である。

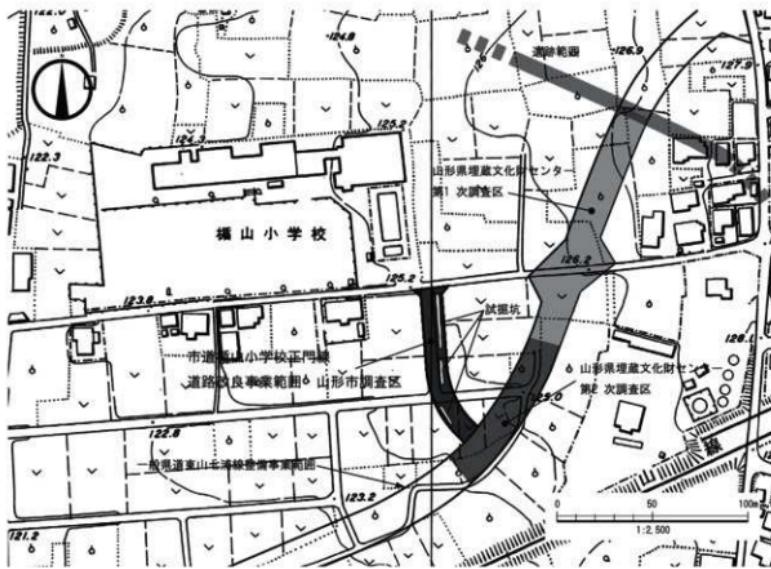
山形市では、上記の県道整備事業に係り市道整備を計画した。その際、市道予定部分が本遺跡の範囲内に含まれると推定されたため、事業課である山形市建設部道路整備課（現：河川道路整備課）と山形市教育委員会社会教育課で埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った結果、事業実施の際には文化財保護法に基づく保護措置をとることで合意を得た。市道改良事業（事業名：市道楯山小学校正門線道路改良工事）の実施は平成 18 年度以降であるが、それに先立ち河川道路整備課は埋蔵文化財調査について山形市教育委員会に依頼した。これを受け、山形市教育委員会では埋蔵文化財の遺存状況や今後の保護措置の検討資料とするため、試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は、用地買収後の平成 17 年 9 月 8 日に実施した。予定地内に任意に 3 箇所のトレーニングを設定し、遺構及び遺物の確認を行った。その結果、耕作土（表土）直下が遺構確認面となり遺物包含層は耕作により削平された状況であった。また、隣接する（財）山形県埋蔵文化財センターの第 2 次調査区においては平安期の遺構確認面の上層に中世の遺構確認面が確認されたが、山形市調査部分については確認されなかった。確認された遺構は、堅穴住居跡、土坑、溝跡などであったが、北側については耕作による搅乱が多く見受けられた。

以上のように本遺跡が市道予定地まで広がっていることが判明したため、工事に先立ち緊急発掘調査を行うこととなったが、山形市教育委員会では、他の業務との関係から調査の対応が困難であると判断されたため、民間調査機関に調査を委託することとした。

現地調査については有限会社山武考古学研究所に委託することが決定し、平成 17 年 10 月 31 日付で委託契約を締結した。契約期間は平成 17 年 10 月 31 日から同年 12 月 28 日までである。

整理作業及び報告書作成作業についても、現地調査同様、山形市教育委員会での対応が困難であったため、民間調査機関に委託することとした。委託者は現地調査と同じく有限会社山武考古学研究所に決定し、平成 18 年 1 月 23 日付で委託契約を締結した。契約期間は平成 18 年 1 月 23 日から平成 18 年 3 月 31 日までである。



第1図 調査概要図

## II 遺跡の位置と環境

### 1 地理的環境

山形市は、山形県の中部東側、県域を貫流する最上川の流域に並ぶ盆地列のひとつである山形盆地南半に位置する。東側は奥羽脊梁山地に属する蔵王及び面白山山地の西面を、西側は白鷹山地の一部を含んでいる。総面積は約 382 km<sup>2</sup>で、市域の約 7 割が山地及び丘陵地帯となっている。市域の最高点は蔵王熊野岳（標高 1840.5 m）で最低点は市域北西端の大字中野目（標高約 92 m）である。

市域は、大きく奥羽山地域・山形盆地域・白鷹山（西部丘陵）地域の3つの地域に区分することができる。

奥羽山地域は南端の熊野岳から北端の面白山に至るまで第四紀に形成された火山性の地形が連なっている。蔵王西麓から須川に至る台地では第四紀の火山活動により火山泥流に覆われており、小池沼を伴っている。

山形盆地域は、東側を市南東部より北流する馬見ヶ崎川及び市北東部の二口峠付近より西流する立谷川の形成した扇状地で占められている。西部及び北西部では、南蔵王に源を発し市南西部から北流する須川と白川（馬見ヶ崎川下流）の沿岸に氾濫原が広がり低地帯を形成している。この低地帯には、これら河川沿いに広がる自然堤防及び後背湿地の他、その旧流路に起因する自然堤防が点在している。また上記の河川は市域北西端部大字中野目付近で合流し、最上川へと入る。

白鷹山地域は、本市域については、上山市に統く隔間場の丘陵地からはじまり、旧白鷹火山火口壁

の高森山を通って、荒沼湖岸から山地西端の山形盆地に向う斜面を含んでいる。

北向遺跡は大字風間字北向・大字青柳字一本木に所在し、上記の区分では山形盆地域にあたり。村山高瀬川の左岸、立谷川扇状地の扇端部に位置し、標高約 125 m を測る。遺跡周辺は北東から南西へ緩やかに傾斜している。立谷川扇状地は扇頂部が山形市地蔵堂付近（標高 220 m）で扇端部は天童市八幡山から山形市漆山に至る弧状を成し、南側ほど扇面が延び、半径約 6 km を測る。また立谷川は、市域東部を北西流する馬見ヶ崎川と並んで本市の主要な涵養源となっている。調査時の地目は畑や果樹園であったが、昭和初期頃の地形図によれば楯山小学校北西部が水田になっており、その付近に村山高瀬川の旧流路が走っていた可能性がある。加えて、山形市に先立ち調査を実施した（財）山形県埋蔵文化財センター調査区では旧河川と思しき溝状の遺構が確認されていることから、過去に本遺跡付近に小河川が存在していたことを示唆している。

## 2 歴史的環境

本遺跡周辺は、市域において遺跡の密度が非常に高い地域にあたり、奥羽山地と立谷川扇状地の傾斜変換点付近、立谷川及び村山高瀬川沿岸、立谷川扇状地扇端部付近を中心に縄文時代から近世までの多くの遺跡が確認されている。

縄文時代では、立谷川沿岸、奥羽山地と立谷川扇状地との傾斜変換点、立谷川扇状地扇端部に遺跡の所在が確認されている。概ね前期から中期の遺跡が主体となる。奥羽山地と立谷川扇状地との傾斜変換点付近では、中期後葉から末葉を主体とする遺跡群と晚期を主体とする遺跡の分布が認められる。立谷川扇状地扇端部付近では概ね晚期の遺跡が主体となる。

弥生時代では、山地と扇状地の傾斜変換点、扇状地扇端部に遺跡の所在が確認され、縄文時代晚期の遺跡とはほぼ同様の分布域を示す。概ね後期（桜井式期）の遺跡が主体となっている。

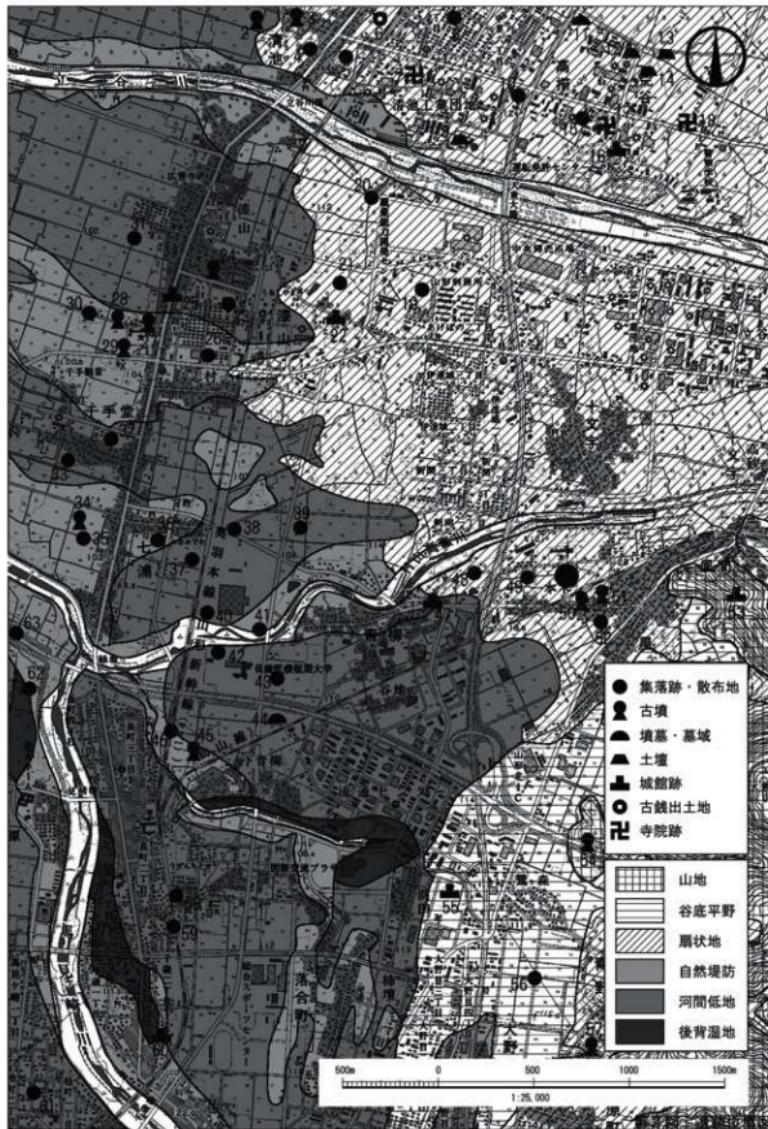
古墳時代では、山地付近の小丘陵や扇状地扇端部に古墳群が多数確認されている。古墳群は概ね後期を主体としたものだが、集落跡では扇状地扇端部に前期を主体とするものの分布が認められる。

奈良・平安時代では、扇状地扇端部付近及び平野部の自然堤防上に多数の集落跡が認められ、特に市内では確認例が少ない 8 世紀中葉や 10 世紀代の集落跡が確認されている。また、本遺跡の北部の奥羽山地西麓には、多数の窯跡が確認されている。

中世以降になると、旧街道沿いや河川沿岸、河川あるいは平野部に面した山地に城館跡が確認されている。また、立谷川沿岸には塚や土壙が所在し、さらに本遺跡東方の大森山には埋納錢や経塚といった信仰関連遺跡が所在している。これら遺跡は立谷川上流に位置する天台宗宝珠山立石寺との関係が示唆されている。立石寺は貞觀二年、慈覺大師円仁の開基といわれ、慈覺大師作と云われる薬師如来を本尊とし、それを含め、根本中堂、如法經碑のほか多数の重要文化財が保管されている。

近世では、大字風間は、最上義光が天正二年に給与以来光明寺領であったが、幕領を経て明和四年（1767）年に武藏国川越城主秋元氏が入部すると秋元領となった。その後さらに幕領を経て明治維新を迎えた。大字青柳は明和四年上野国小幡城主の織田信浮が東置賜郡高畠に移封されると同時に織田領となり明治維新を迎えた。近世の屋敷跡などは確認されていないが、立谷川沿いに東進し太平洋側へと至る山寺街道沿いには多数の石塔が散在する。

## II 遺跡の位置と環境



第2図 遺跡の位置と周辺遺跡（国土地理院発行 1/25,000 地形図「山形北部」「山寺」を合成）

表1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名(別称・旧称)	県道路番号 (中掛城館遺跡番号) 〔天童市遺跡番号〕	時期	種別
1	北向	H13 新規	平安・中世	集落跡
2	火矢塚2号古墳	240[10]	古墳	古墳
3	火矢塚1号古墳	239[9]	古墳	古墳
4	火矢塚	241[11]	礪文(中・晚) / 古墳 / 泰良・平安	集落跡
5	清池	H7 新規[129]	平安	集落跡
6	村東 A	242[12]	中世	古鉄出土地
7	水庭寺	238[8]	礪文(後・晚) / 弥生 / 古墳(中) / 泰良・平安・中世	集落跡・寺院跡
8	中里 A	246[16]	礪文(中)	集落跡
9	清池藤原(藤原)	H7 新規[130]	中世	土壇
10	三手段	H7 新規[126]	礪文 / 平安	集落跡
11	長坂古墳	H7 新規[139]	平安	墳墓
12	清池金石碑	237[7]	中世	土壇
13	鳥居原上古墳	H7 新規[138]	中世・近世	土壇
14	清池藤原	236[6]	中世	土壇
15	伊達城	H7 新規[136]	礪文	集落跡
16	伊達城	235[210-017][5]	中世	城館跡
17	石仏廟寺	234[4]	平安・中世	寺院跡
18	安樂寺旧地	H7 新規[117]	中世・近世	寺院跡
19	南志田	H14 新規	古墳 / 泰良・平安	集落跡
20	一ノ坪	H9 新規	礪文(晚) / 古墳 / 泰良・平安	集落跡
21	梅ノ木	H9 新規	古墳 / 泰良・平安	古墳 / 集落跡
22	伊達城	171(201-021)	中世	城館跡
23	北道上 A(蓬山)	162	弥生	集落跡
24	柴崎古墳群	169	古墳	古墳
25	蓬山館	H7 新規(201-020)	中世	城館跡
26	北道上 B	168	泰良・平安	集落跡
27	衛守塚・古墳群	163	古墳	古墳
28	衛守塚2号古墳	164	古墳	古墳
29	衛守塚4合古墳	165	古墳	古墳
30	井森塚	166	弥生	集落跡
31	蓬山	170	弥生	集落跡
32	千手堂大門	140	泰良・平安	散布地
33	南川原	167	弥生	集落跡
34	七瀬古墳群	142	古墳	古墳
35	七瀬	141	弥生 / 古墳	集落跡
36	五反	144	古墳	集落跡
37	七瀬一ノ坪	145	弥生	集落跡
38	大明神	143	泰良・平安	集落跡
39	蓬山長義	H8 新規	古墳 / 泰良・平安・中世	集落跡
40	北桜2	H7 新規	古墳	集落跡
41	北桜1	H7 新規	礪文(晩末)～弥生(中) / 古墳	集落跡
42	下柳 C	154	泰良・平安	集落跡
43	下柳 A	152	礪文 / 弥生 / 古墳	集落跡
44	下柳 B	153	中世	墳墓
45	白山堂前	155	古墳	集落跡
46	西ノ神	9	弥生(後)	集落跡
47	青柳前	151	中世	城館跡
48	一本木 B	150	泰良・平安	集落跡
49	一本木 A	149	泰良・平安	集落跡
50	風鶴 B古墳	177	古墳	古墳
51	間所免古墳(風鶴 A古墳)	175	古墳	古墳
52	守西	174	泰良・平安	集落跡
53	風鶴前	178(201-019)	中世	城館跡
54	お花山古墳群	30	弥生(後) / 古墳(中・後)	集落跡 / 古墳
55	浜田館	H7 新規(201-046)	中世	城館跡
56	鈴田	26	弥生	集落跡
57	高屋古墳	未登録	古墳	古墳
58	長町北河原	8	弥生	散布地
59	長町	132	弥生	集落跡
60	落合館	131(201-008)	中世	城館跡
61	新柴ノ木	5	古墳	集落跡
62	境田 A	133	泰良・平安	集落跡
63	境田 D	S56 新規	礪文 / 弥生 / 泰良・平安	集落跡

## II 遺跡の位置と環境

本遺跡周辺には、間所免古墳（51）、風間B古墳（50）などの古墳のほか、一本木A遺跡（49）、一本木B遺跡（48）などの奈良・平安時代の遺跡が所在するが、これまで正式な調査は実施されておらず詳細は不明である。近隣で発掘調査が行われた遺跡としては、天童市永源寺遺跡（7）、山形市南志田遺跡（19）、山形市一ノ坪遺跡（20）、山形市梅ノ木遺跡（21）などがある。いずれも、立谷川扇状地の扇端部付近に所在する奈良・平安期を主体とする遺跡である。市内の他の地域では8世紀後葉から9世紀中葉までの集落跡が主体であるのに対し、8世紀中葉から10世紀前葉までの遺構・遺物が確認されている。上記遺跡は殆どが竪穴住居跡を主体とした集落跡で、掘立柱建物跡を主体とする集落跡は付近では確認されていない。また、袋状鉄斧、金属製錘錘車、鎌などの金属製品の出土が市域の他の遺跡に対して多く認められるのも特徴である。本遺跡についても同様で、先行して実施された（財）山形県埋蔵文化財センターによる調査では、掘立柱建物跡はあまり確認されない一方で多数の竪穴住居跡が確認された。それら竪穴住居跡は時期を追って多数が重複した状況で確認されており、長期間にわたり安定した環境であったことを物語る。

## III 調査の方法と経過

### 1 調査の方法

試掘調査の結果に基づき、市道改良予定地の900mに対して調査を実施した。排土置き場が調査区外に確保できないことから、農道を境にして南地区をA区、北地区をB区と仮称し、切り返し調査を行うこととした。A区から調査に着手し、終了後、A区の埋め戻し、B区の表土除去、遺構調査へと進めた。

調査は、遺構確認面までの土層を重機にて除去した後に、人力による遺構確認作業、遺構掘り下げ作業を行った。調査区には公共座標を用いた5×5mのグリッドを設定した。グリッドの呼称は本遺跡の南端に接して調査が行われた「北向遺跡」〔平成17年度（財）山形県埋蔵文化財センター〕の名称を継承して付番し、南北方向、東西方向とともに2桁の数値を用い、南北方向－東西方向の順に記した（例『28-60』）。各グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。図面は、遺構全体図が1/100、遺構実測図・土層断面図が1/20、カマド・遺物出土状況が1/10を基本として作成した。

写真撮影は各調査段階に応じて行い、モノクロ35mm判、カラーリバーサル35mm判、モノクロプロニード6×7判を使用した。

### 2 調査の経過

調査は平成17年10月31日～同年12月28日まで実施した。調査経過の概略は、下記のとおりである。

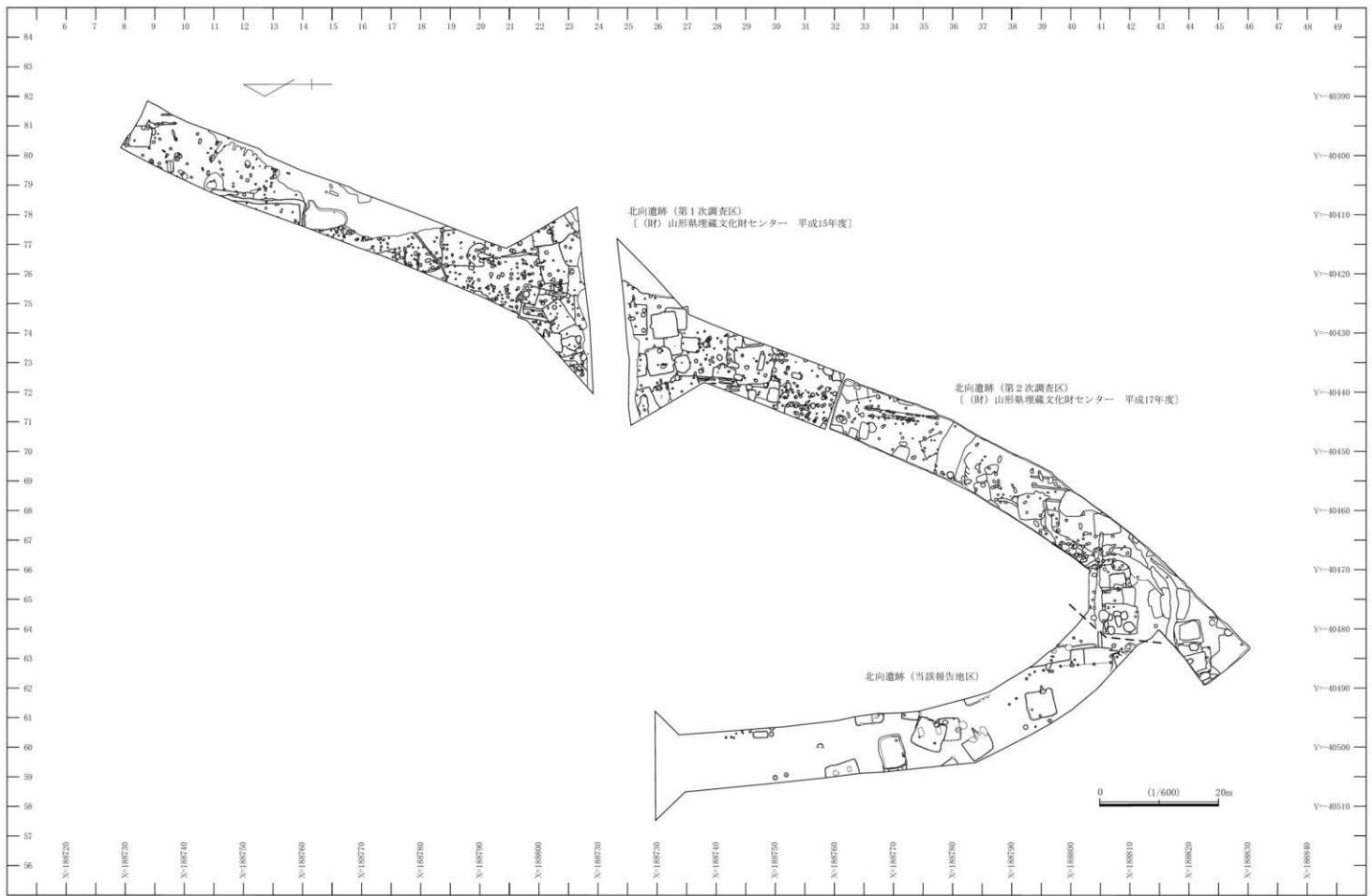
10月

31日 調査、準備作業。

11月

9日 アスファルト敷の切断作業。

10日 A区から表土掘削を開始。発掘施設・器材の搬入。



第3図 北向遺跡調査区全体図

- 11日 A区の表土掘削終了。
- 14日 遺構検出作業開始。
- 16日 基準杭設定の後、遺構調査開始。
- 17~29日 遺構掘削、断面実測、平面実測、写真撮影実施。
- 30日 A区の遺構調査終了。
- 12月
- 1日 A区の埋め戻し開始。B区の安全対策実施。
- 3日 A区の埋め戻しを終了、B区の表土掘削開始。
- 5日 B区の表土掘削終了、遺構検出作業開始。
- 8日~22日 遺構掘削、断面実測、平面実測、写真撮影実施。
- 15日 基準杭設定。
- 24日 B区の遺構調査終了。
- 26日 B区の埋め戻し開始。発掘施設・器材の撤収。
- 28日 B区の埋め戻し作業を終了、現地調査の全てを終了する。

### 3 基本層序

遺跡は立谷川扇状地にあり、北西から南西に緩やかに高さを減じている。基本層序の観察は調査区南端（A）と中央やや北寄り（B）の2地点で行った。I・II層は表土層でI層は現耕作土である。III層はにぶい黄褐色から場所によって暗褐色を呈するシルトで遺構確認面である。下層は「試掘坑A」ではさらにIV層・灰黄褐色シルト、V層・黄褐色シルトがみられ、VI層・砂層、VII・砾層に至る。「試掘坑B」ではIII層はやや暗い色相を呈し、その直下で砾層が確認されている。



第4図 北向遺跡基本層序

## IV 検出された遺構と遺物

### 1 遺跡の概要

調査の結果、奈良・平安時代の堅穴住居跡 14 棟、構列 1 条、溝跡 2 条、土坑 12 基、ピット 27 基が検出された。住居跡としたもののうち、S I 1005 は平面形態などから住居跡とは性格が異なると思われる。多くの遺構は、耕作や道路工事などによる擾乱を受けていて、遺存状況は良くない。分布密度は中央部から南で高く、北寄りでは極端に低くなっている。

### 2 検出された遺構と遺物

#### (1) 堅穴住居跡

##### S I 1002 (第 6・23 図、図版 1・2)

40・41・62・63 グリッドに位置する。S D 567・1019、S P 1056、S A 1057 E P 3・4 と重複し、S D 1019、S P 1056、S A 1057 E P 3・4 より、本遺構が古い。S D 567 との新旧関係についての詳細は不明である。耕作により削平を受け、遺存は良くない。規模は南北軸で 4.90 m、東西軸は壁の立ち上がりが確認できず不明。検出面からの深さは 8 cm である。主軸は N - 180° - E を示す。覆土は炭化粒子を含む黒褐色シルトである。ピットは検出されていない。カマドは南壁東寄りに付設される。煙道部は壁を掘り込んで構築され燃焼部から僅かな上がり傾斜で延びている。須恵器壺 2 点 (1・2)、赤焼土器壺 5 点 (3~7)、土師器甕 1 点 (8)、土師器小型甕 2 点 (9・13)、赤焼土器甕 2 点 (10・11)、須恵器甕 1 点 (12) を図示した。3・4・6 は床面から、9~11 はカマド内から出土している。土器の様相から、年代的には 9 世紀後葉から 10 世紀前葉と思われる。

##### S I 1003 (第 7・24 図、図版 2)

41・62・63 グリッドに位置する。S K 1006、S P 1054 と重複し、本遺構が古い。規模は南西側が調査区外となり、南東側を S K 1006 に切られるため、全容は不明である。検出面からの深さは 26 cm である。主軸は N - 84° - E を示す。覆土は 3 層に分かれ、上・中層は黒褐色シルト、下層は灰黄褐色シルトである。床面はほぼ平坦である。南東寄りの床下からは、灰黄褐色シルト (4 層) が堆積する土坑状の掘り込みが検出されている。ピットはカマド前面の北側に 1 基 (E P 1) 検出されている。規模は長軸 31cm × 短軸 23cm、深さ 14cm である。カマドは東壁北寄りに付設される。袖は検出されなかったが、前面には被熱による焼土化が認められ、この部分が燃焼部であったと想定される。燃焼部から煙道に至る箇所の北壁には構築材として使用されたとみられる礫が出土している。煙道は壁面を掘り込んで構築され、緩やかな上がり傾斜で延びている。須恵器壺 1 点 (14)、赤焼土器壺 1 点 (15)、土師器甕 2 点 (16・17) を図示した。いずれも埋没土中からの出土である。土器の様相から、年代的には 9 世紀後葉と思われる。

##### S I 1004 (第 8・9・25、図版 2)

38・39・61・62 グリッドに位置する。S P 1052・1053 と重複し、本遺構が古い。規模は東西軸 4.50 m、南北軸 4.80 m、検出面からの深さは 15cm である。平面形態は方形である。主軸は N - 78° - E を示す。覆土は 3 層に分かれ、上層は黒褐色シルト、2 層は黒色シルト、下層は灰黄褐色シルト

である。床面はやや凹凸があり、カマドを中心軸とした中央やや南で硬化が認められる。壁際の周辺では幅70～100cm、床面からの深さで4～15cmの掘り方が検出されていて、にぶい黄褐色シルトブロックを含む黒褐色シルトが堆積し、この上面を床としている。本遺構に伴うとみられるピットは検出されていない。カマドは東壁の中央から南寄りに付設される。燃焼部は暗褐色シルトを用いて構築され、礫を使用している。須恵器壺2点(18・19)、赤焼土器壺2点(20・21)、土師器壺1点(22)、赤焼土器甕2点(23・25)、赤焼土器小型甕1点(26)、赤焼土器鍋1点(24)、須恵器甕1点(27)を図示した。18は床面西寄り、20はカマド内から、21は床面西寄り、24は東壁際から出土している。土器の様相から、年代的には9世紀前葉から中葉と思われる。

#### S I 1005 (第10・25図、図版3)

38・39・62・63グリッドに位置する。SK 1023、SP 1011・1055と重複し、本遺構が古い。規模は東西軸2.56m、南北軸は検出された部分で7.00mで、さらに調査区外へと延びている。検出面からの深さは18cmである。平面形態は狭長な長方形が想定される。主軸はN-347°-Eを示す。覆土は2層に分かれ、上層は炭化物を含む黒色シルト、下層は黒褐色シルトである。底面は平坦ではなく僅かな起伏がある。ピットはほぼ中央に検出されたE P 1が本遺構に伴うと判断された。規模は直径17cm、底面からの深さは6cmである。東壁際に人頭大の礫7点を配した掘り込みが検出されている。この掘り込みの全容は、北東側が調査区外となるため不明だが、北西-南東軸で100cm、底面からの深さで18cmである。本遺構は平面形状や、底面が床面としては捉えがたく、通常の竪穴住居跡とは異なる様相がみられるが、性格を特定できる資料の出土はなく詳細は不明である。赤焼土器壺3点(28～30)、土師器壺2点(31・32)、赤焼土器甕2点(33・34)、土師器甕1点(35)を図示した。28～30、33・34は石組みを配した掘り込み内から、32は掘り込み内とその周辺から、31・35は覆土中から出土している。土器の様相から、年代的には9世紀後葉と思われる。

#### S I 1029 (第11・12・26図、図版3)

36・37・59・60グリッドに位置する。規模は北西-南東軸4.61m、北東-南西軸3.56m、検出面からの深さは6cmである。現道の舗装工事の際に削平され、また、カマド周辺が搅乱を受けるなど遺存は良くない。平面形態は主軸方向が短軸となる長方形である。主軸方向はN-32°-Eを示す。覆土は暗褐色シルトが堆積する。床面はほぼ平坦で、ピット・壁周溝は検出されていない。カマドは北東壁の中央からやや南寄りに付設される。壁面を掘り込んで構築され、焚き口から燃焼部に至る部分で被熱による焼土化が認められる。煙道は燃焼部から13cmほど高くなり水平に延びている。土師器壺1点(36)、土師器甕2点(37・38)、須恵器横瓶1点(39)を図示した。38はカマド内から、他は覆土中から出土している。土器の様相から、年代的には8世紀代と思われる。

#### S I 1030 (第13図、図版3)

35・36・59グリッドに位置する。西側が調査区外へと延び、検出された部分は東角隅部のみで、全容は不明である。検出面からの深さは14cmである。主軸は北東壁での計測でN-306°-Eを示す。覆土は2層に分かれ、上層は黒褐色シルト、下層は暗褐色シルトである。床面はほぼ平坦で、ピット、壁周溝は検出されていない。カマドは調査できた範囲内では検出されていない。掲載可能な遺物の出土はみられなかった。時期は特定できる資料の出土がなく詳細は不明である。

#### S I 1031 (第14・27図、図版3・4)

34・35・60・61 グリッドに位置する。規模は東西軸 4.93 m、南北軸 5.20 m、検出面からの深さは 28cm である。平面形態は方形である。S I 1032 と重複し、本遺構が新しい。主軸は N - 111° - E を示す。覆土は 4 層に分かれ、上層は黒褐色シルト、中・下層は暗褐色シルトである。床面はやや凹凸があり、柱穴の内側では地山を直接床としていて硬化が認められる。カマドが付設されている東壁際を除いて、幅 74 ~ 95cm、深さ 5 ~ 23cm の掘り方を有し、暗褐色シルト（5 層）を充填して床を構築している。ピットは 4 基（E P 1 ~ 4）検出され、主柱穴とみられる。この内、E P 1・4 は東壁際に検出されている。各ピットの規模は E P 1・長軸 32cm × 短軸 29cm、深さ 42cm、E P 2・長軸 35cm × 短軸 30cm、深さ 33cm、E P 3・長軸 46cm × 短軸 36cm、深さ 38cm、E P 4・直径 29cm、深さ 35cm である。カマドは東壁の中央からやや南寄りに付設される。燃焼部は褐色シルトと暗褐色シルトを用いて構築され、袖部には縄を使用している。底面の中央や北寄りで被熱による焼土化が顯著である。煙道部は壁面を掘り込んで構築され、燃焼部から僅かな上がり傾斜で延び先端で立ち上がっていいる。須恵器壺 4 点（40 ~ 42・44）、須恵器蓋 1 点（43）、須恵器双耳环把手部 1 点（45）、赤焼土器蓋 1 点（46）、赤焼土器甕 4 点（47・48・50・52）、赤焼土器小型甕 2 点（49・51）、土師器小型甕 1 点（53）、須恵器甕 1 点（54）、石製円盤 1 点（55）を図示した。40・41・44・49 は床面中央やや南寄りからまとまって出土している。48 はカマド内から出土している。土器の様相から、年代的には 9 世紀前葉から中葉と思われる。

#### S I 1032 (第 15・27 図)

35・36・60・61 グリッドに位置する。規模は東西軸 3.76 m、南北軸 3.40 m、検出面からの深さは 20cm である。平面形態は方形である。S I 1031 と重複し、本遺構が古い。主軸は N - 355° - E を示す。覆土は 2 層に分かれ、上層は黒褐色シルト、下層は暗褐色シルトである。床面はほぼ平坦である。ピット・壁周溝は検出されていないが、北東角（E K 1）と南壁の中央（E K 2）にそれぞれ土坑状の掘り込みが検出されている。E K 1 は長軸 98cm × 短軸 78cm、深さ 8cm で覆土は褐色シルトブロックや焼土ブロックを含む黒褐色シルトである。E K 2 は長軸 96cm × 短軸 87cm、深さ 19cm で、覆土は褐色シルトブロックを含む黒褐色シルトである。いずれも明瞭に貼床が施された痕跡は認められなかった。ピットは東壁際南寄りに 1 基（E P 1）検出されている。規模は直径 25cm、深さ 20cm である。カマドは検出されていないが、S I 1031 に切られる北壁に付設されていた可能性が高い。土師器壺 4 点（56 ~ 59）、須恵器甕 1 点（60）、滑石製円盤 1 点（61）を図示した。いずれも覆土中からの出土である。土器の様相から、年代的には 7 世紀前葉と思われる。

#### S I 1033 (第 16・27 図、図版 4)

36 ~ 61 グリッドに位置する。東が調査区外へと延び、南は、現道によって削平されていて全容は不明である。検出面からの深さは 40cm である。主軸は東壁での計測で N - 337° - E を示す。覆土は 4 層に分かれ、上・中層は小砾を含む黒褐色シルト、下層は暗褐色シルトである。床面はほぼ平坦である。ピット・壁周溝は検出されていない。北寄りに床下土坑が検出されている。東側が調査区外となり全容は不明だが、南北軸で 84cm、深さ 17cm で、埋土は 3 層に分かれ、上・下層は黒褐色砂質土で中層は褐色砂質土である。カマドは調査できた範囲内では検出されていない。須恵器壺 1 点（62）を図示した。覆土中からの出土である。土器の様相から、年代的には 8 世紀後葉から 9 世紀前葉と思われる。

**S I 1034 (第 18・27 ~ 30 図、図版 4)**

33・34・59・60 グリッドに位置する。S I 1037 と重複し、本遺構が新しい。規模は東西軸 5.60 m、南北軸 4.14 m、検出面からの深さは 46cm である。平面形態は主軸方向が短軸となる長方形である。主軸は N - 167° - E を示す。覆土は 3 層に分かれ、上・中層は炭化物を含む暗褐色シルトで、下層は暗褐色シルトである。床面はほぼ平坦で、西壁際と東壁から南壁際にかけて壁周溝が検出されている。ピットは E P 1・2 が床面での検出であるが、E P 3・5~7、E K 4・8・9 は覆土の状況から床下の掘り込みの可能性が高い。各ピットの規模は E P 1・長軸 39cm × 短軸 38cm、深さ 14 cm、E P 2・直径 40cm の円形、深さ 16cm、E P 3・長軸 24cm × 短軸 19cm、深さ 15cm、E K 4・直径 87cm の円形、深さ 16cm、E P 5・長軸 36cm × 短軸 26cm、深さ 8cm、E P 6・長軸 47cm × 短軸 40 cm、深さ 20cm、E P 7・長軸 37cm × 短軸 31cm、深さ 12cm、E K 8・長軸 83cm × 短軸 73cm、深さ 7cm、E K 9・長軸 65cm × 短軸 50cm、深さ 7cm である。カマドは壁面の掘り込みがなく明瞭ではなかったが、南壁西寄りで、構築材とみられる褐色シルトが検出されたことや、その西側で焼土ブロックが検出されたこと、また、遺物の出土状況から、この部分がカマドであったと思われる。須恵器壺 19 点 (63~80・85)、須恵器蓋 4 点 (81~84)、土師器壺 2 点 (86・87)、土師器甕 1 点 (88)、赤焼土器甕 4 点 (89~92)、須恵器短頸甕 1 点 (95)、須恵器甕 1 点 (96)、砥石 1 点 (97) を図示した。63・64・66・72・76・82・83・86・93 はカマドと想定される箇所から、67・69 は床面から、68 は覆土中から、94 は E P 1 内からそれぞれ出土している。土器の様相から、年代的には 9 世紀前葉と思われる。

**S I 1035 (第 17・30 図)**

31・32・59 グリッドに位置する。西側が調査区外へと延びるため全容は不明である。規模は南北軸方向が 5.58 m、検出面からの深さは 12cm である。床面はほぼ平坦でピットや壁周溝は検出されていない。掘り方を有し、暗褐色シルトを 4~10cm の厚さで充填して床を構築している。主軸は東壁での推定で N - 332° - E を示す。覆土は 2 層に分かれ、上層は暗褐色シルト、下層は黒褐色シルトである。カマドは調査できた範囲内では検出されていない。土師器壺 1 点 (98) を図示した。床面からの出土である。時期は小片のみの出土で特定できる資料の出土がなく詳細は不明である。

**S I 1036 (第 19・30 図、図版 4)**

32・33・60・61 グリッドに位置する。東側が調査区外へと延びるため全容は不明である。規模は南北軸 4.74 m、検出面からの深さは 17cm である。主軸は東壁での計測で N - 353° - E を示す。覆土は 2 層に分かれ、上層は黒褐色シルト、下層は暗褐色シルトである。ピットは南寄りに 1 基 (E P 1) 検出されている。規模は長軸 25cm × 短軸 19cm、深さ 11cm である。南端部では床下から E K 2 が検出されている。東側が調査区外へと延びるため全容は不明だが南北軸 54cm、深さ 6cm である。カマドは調査できた範囲内では検出されていない。須恵器壺 1 点 (99)、須恵器蓋 1 点 (100)、黒色土師器耳皿 1 点 (101) を図示した。いずれも覆土中からの出土である。土器の様相から、年代的には 9 世紀後葉から 10 世紀前葉と思われる。

**S I 1037 (第 18 図、図版 4)**

33・34・59 グリッドに位置する。S I 1034 と重複し、本遺構が古い。西側は調査区外へと延び、東側は S I 1034 に切られ検出された部分は僅かである。規模は南北軸 3.91 m、検出面からの深さは 14cm である。覆土は暗褐色シルトである。ピットは 3 基 (E P 1・2・3) 検出されている。各ピッ

トの規模はE P 1・直径20cm、深さ7cm、E P 2・直径20cm、深さ8cm、E P 3・長軸26cm×短軸16cm、深さ29cmである。カマドは調査できた範囲内では検出されていない。掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

#### S I 1051（第20・30図、図版4）

34-61グリッドに位置する。東側が調査区外へと延びるため、全容は不明である。規模は南北軸2.92mで、検出面からの深さは25cmである。主軸は西壁での計測でN-7°-Eを示す。覆土は2層に分かれ、上・下層ともに暗褐色シルトである。床面はほぼ平坦で、概ね地山を床としていて、セクション図に表れていないが、掘り方の凹凸を埋めるように黒褐色シルトが貼られている。北西角に、S K 1が検出されている。規模は長軸40cm×短軸30cm、深さ10cmである。カマドは調査できた範囲内では検出されていない。須恵器壺1点（102）、土師器甕1点（103）を図示した。いずれも覆土中からの出土である。土器の様相から、年代的には8世紀後葉から9世紀代と思われる。

#### （2）柵列

##### S A 1057（第21図、図版4）

39-41-62グリッドに位置する。S I 1002と重複し、本遺構が新しい。4基のピットが直列するピット列である。規模はピット底面の中心の計測で、8.50mである。主軸方向はN-355°-Eを示す。中間寸法はE P 1・2間2.98m、E P 2・3間2.71m、E P 3・4間2.85mである。各ピットの規模はE P 1・長軸40cm×短軸32cm、深さ11cm、E P 2・長軸33cm×短軸27cm、深さ5cm、E P 3・長軸42cm×短軸41cm、深さ18cm、E P 4・長軸43cm×短軸37cm、深さ19cmである。時期を示す資料の出土はなく詳細は不明である。

#### （3）溝跡

##### S D 1019（第21・30・31図、図版5）

40-63グリッドに位置する。S I 1002と重複し、本遺構が新しい。規模は幅0.74m、検出面からの深さは概ね13cmである。走行方向はN-175°-Eを示す。覆土は暗褐色シルトが堆積する。須恵器蓋1点（104）、双耳環把手部1点（105）を図示した。土器の様相から、年代的には9世紀前葉と思われる。

##### S D 567（第21図、図版1）

40-63・64グリッドに位置する。（財）山形県埋蔵文化財センター第2次調査区から本調査区へ連続して検出された遺構である。S I 1002と重複しているが、新旧関係の詳細は不明である。規模は幅0.66m、検出面からの深さは25cmで、走行方向はN-87°-Eを示す。覆土は3層に分かれ、上層は黒褐色シルト、下層にはぶい黄褐色シルトが堆積する。掲載可能な遺物の出土はみられなかつた。

#### （4）土坑・ピット

##### 土坑

##### S K 1006（第21・31図、図版5）

41・42・63 グリッドに位置する。南西側が調査区外となるため全容は不明である。東西軸で1.45 m、検出面からの深さは44cmである。覆土は4層に分かれ、上・中層は炭化粒子を含む黒褐色や黒色シルトで、最下層には炭化粒子を含むにぶい黄褐色シルトが堆積する。須恵器壺2点(106・107)赤焼土器壺2点(108・109)、須恵器長頸瓶1点(110)、赤焼土器甕(111)を図示した。土器の様相から、年代的には9世紀後葉と思われる。

#### S K 1012 (第21図、図版5)

39・40・62 グリッドに位置する。長軸0.70m、短軸0.60m、検出面からの深さは25cmで、平面形態は楕円形である。長軸の方向はN-0°を示す。覆土は3層に分かれ、上層は黒褐色シルト、中層は暗褐色シルト、下層はにぶい黄褐色シルトが堆積する。掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

#### S K 1021 (第21・31図、図版5)

39・61 グリッドに位置する。長軸0.66m、短軸0.56m、検出面からの深さは44cmで、平面形態は楕円形である。長軸の方向はN-356°-Eを示す。覆土は2層に分かれ、上層は暗褐色シルト、下層は灰黄褐色シルトが堆積する。赤焼土器甕1点(112)、土師器甕2点(113・114)を図示した。いずれも底面上から出土している。土器の様相から、年代的には9世紀代と思われる。

#### S K 1022 (第21図)

38・60 グリッドに位置する。直径0.78m、検出面からの深さは18cmで、平面形態は円形である。覆土は2層に分かれ、上層は暗褐色シルトが堆積する。掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

#### S K 1023 (第21図、図版5)

39・62 グリッドに位置する。S I 1005と重複し、本遺構が新しい。長軸1.28m、短軸0.78m、検出面からの深さは12cmで、平面形態は不整楕円形である。長軸の方向はN-114°-Eを示す。覆土は暗褐色シルトが堆積する。掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

#### S K 1024 (第21図)

41・63 グリッドに位置する。長軸0.72m、短軸0.64m、検出面からの深さは15cmで、平面形態は楕円形である。長軸の方向はN-119°-Eを示す。覆土は2層に分かれ、上層は黒褐色シルト、下層は灰黄褐色シルトが堆積する。掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

#### S K 1038 (第21図)

29・60 グリッドに位置する。長軸2.57m、短軸1.13m、検出面からの深さは17cmで、平面形態は長方形である。長軸の方向はN-354°-Eを示す。覆土は3層に分かれ、いずれも暗褐色シルトが堆積する。掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

#### S K 1039 (第21図、図版5)

31・60 グリッドに位置する。西側過半が舗装道路に切られるため全容は不明である。南北の検出長102cm、検出面からの深さは19cmで、平面形態は円形と想定される。覆土は2層に分かれ、上層は黒褐色シルトで下層は暗褐色シルトである。掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

#### S K 1040 (第21図)

29・60 グリッドに位置する。長軸0.88m、短軸0.68m、検出面からの深さは9cmで、平面形態は楕円形である。長軸の方向はN-108°-Eを示す。覆土は2層に分かれ、暗褐色シルトが堆積す

る。掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

**S K 1041 (第 21 図)**

29 - 60 グリッドに位置する。西側過半が調査区外となり全容は不明である。南北の検出長 0.94 m、検出面からの深さは 18cm である。覆土は 2 層に分かれ、暗褐色シルトが堆積する。掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

**S K 1042 (第 21 図、図版 5)**

29 - 59 グリッドに位置する。直径 0.8 m、検出面からの深さは 12cm で、平面形態は不整円形である。覆土は暗褐色シルトの単層である。土師器甕 1 点 (115) を図示した。覆土中からの出土である。土器の様相から、年代的には 9 世紀代と思われる。

**S K 1043 (第 21・31 図、図版 5)**

30 - 59 グリッドに位置する。直径 0.67 m、検出面からの深さは 11cm で、平面形態はほぼ円形である。覆土は黒褐色シルトの単層である。須恵器壺 1 点 (116) を図示した。覆土中からの出土である。土器の様相から、年代的には 9 世紀後葉と思われる。

**ピット (表 2、第 22・31 図)**

ピットは調査区南東寄りと北寄りにいくらくまとまりをもって検出されている。柵列として捉えられた S A 1057 以外は、規則的な配置は捉えられなかつたが、掘立柱建物跡、堅穴住居跡柱穴、柵列の一部などが想定される。各ピットの規模等の詳細は「表 2 ピット一覧表」にまとめた。

## V 遺構外出土遺物

表採遺物や遺構内であつても明らかに時期が異なり、流れ込みと判断されるものを遺構外出土遺物として取り扱った。このうち、硯に転用された須恵器蓋 1 点 (118)、弥生土器片 1 点 (119) を図示した。いずれも、表土中から出土している。

## VI まとめ

北向遺跡はこれまでに平成 15 年度と平成 17 年度の 2 次にわたり、一般県道東山七浦線整備事業に伴い(財)山形県埋蔵文化財センターによって調査が行われ、奈良・平安時代の遺構・遺物が検出されている。今回の調査区は県道と交差する市道楯山小学校正門線道路改良工事に伴つて実施したもので交差部分から、楯山小学校へと向かう 900m を対象として調査を行つた。

遺構は古墳時代後期から平安時代に至るもので堅穴住居跡 14 棟、柵列 1 条、溝跡 2 条、土坑 12 基、ピット 27 基である。

堅穴住居跡は 14 棟のうち、古墳時代後期 1 棟 (S I 1032)、奈良・平安時代 11 棟 (S I 1002 ~ 1005・1029・1031・1033 ~ 1036・1051)、詳細な時期が不明なもの 2 棟 (S I 1030・1037) である。今回の調査では(財)山形県埋蔵文化財センターによって 2 次わたつて調査が行われた地区とはほぼ同様の様相が見られ、集落がさらに北東へと広がることが確認された。

検出された遺構の中で主体を占める奈良・平安時代の堅穴住居跡について、カマドや主柱穴など住

居の構造的な特徴について二三検討する。

8世紀後半の竪穴住居跡であるS I 1029は、主軸を北東方向に約45°向けた横長の平面形で、北東壁中央僅かに南寄りにカマドが付設されている。カマドの位置については、8世紀後半から9世紀代を通じて東壁側に見られるものが多い。東壁でも中央南寄りのものがS I 1004とS I 1031で9世紀前葉から中葉頃、東壁の北寄りにあるものがS I 1003で9世紀後葉頃と思われる。9世紀後葉から10世紀前葉頃と思われるS I 1002は南壁側の東角寄りの位置にある。

9世紀第1四半期頃と思われるS I 1034はカマド、主柱穴がなく長方形のプランである。ただし、S I 1034は燃焼部、煙道部とともに明確には捉えられなかつたが、南壁中央西寄りにカマドが付設されていた可能性もある。S I 1005は南北方向に極端に細長い竪穴で、住居になるかどうか不明であるが、カマドを持った竪穴住居跡に付随するなんらかの性格を持った竪穴遺構と思われる。

竪穴住居跡の主柱穴は、古墳時代から引き続き奈良時代までのもの（小型の竪穴住居跡を除いた）では床上に4本見られるのが一般的である。この遺跡の例では主柱穴の開く住居は、4本主柱穴が開くと思われるS I 1035、主柱穴の内カマド寄りの2本が壁際に開くS I 1031がある。8世紀後葉から9世紀前葉頃の中～小型の竪穴住居跡で主柱穴の位置に変化が見られる。S I 1031は、北関東の遺跡の例などから、主柱穴が開く住居から主柱穴の開かない住居への過渡期の時期の住居となると思われる。9世紀中葉頃のS I 1004では、方形プランで床上に主柱穴が開かない住居となる。

限られた調査区内における10軒余りの検討であるので、これがこの時期的一般的な例かどうかは、類例の増加後再検討の必要がある。

出土遺物は、須恵器、土師器、赤焼土器、石製品が出土している。須恵器は、壺、高台付壺、壺蓋、双耳壺、長頸瓶、甕、壺、横瓶が出土している。土師器は、壺、甕と黒色土器壺、鉢、椀、耳皿が出土している。赤焼土器は、壺、高台付壺、甕、鍋が出土している。

須恵器の壺は、8世紀後半から9世紀代のものが出土している。S I 1033の須恵器壺（62）はヘラ切りで底径が大きく8世紀後葉頃のものかと思われる。S I 1034の須恵器壺（63・64）もヘラ切りで底径が大きいが、器高がやや低く9世紀第1四半期頃のものと思われる。S I 1031の須恵器壺（40）は器高が低く体部にやや丸味を持っており、平野山窯跡群から出土しているものと同様の双耳壺を伴っており、9世紀第2四半期頃のものと思われる。S I 1003出土の須恵器壺は、糸切り底で底径が小さく9世紀第4四半期頃のものと思われる。高台付壺では、体部に丸味を持った椀形に近い特徴的な高台形のもの（106・107）がS K 1006から出土している。双耳杯はS I 1003のもの（45）とSD 1019から出土しているもの（105）があり、いずれも口縁部の縁に近い位置に把手が付いており平野山古窯跡群第14地点遺跡1号窯跡出土遺物に類似している。

土師器の壺は、S I 1032から古墳時代後期のものが4点出土している。土師器の壺はいずれもミガキ調整で、口縁部と体部の境に稜を持つタイプ（56・57）と器高のやや高い椀形のもの（58・59）が出土している。8世紀中葉以降のものは土師器甕と黒色土器がある。土師器の甕は、ハケ目調整のものが10世紀前葉頃のもの（8・13）まで見られる。土師器の黒色土器は壺・椀・鉢類が主体で、8世紀代のものでは、S I 1029から平底で体部が丸く全体に半円形状を呈す大型壺（36）が、9世紀前葉のものではS I 1034の壺（87）、鉢（86・88）がある。9世紀後葉頃のものではS I 1005から高台付椀（32）、大型の鉢（31）が見られる。いずれも内面を黒色処理したものだが、S I 1036か

らは9世紀後葉から10世紀前葉頃のものと思われる内外面黒色処理の耳皿（101）が出土している。

赤焼土器は、通常の須恵器の器形のもので赤焼土器になったものがS I 1031に見られる。9世紀前半頃のもので、酸化焰焼成により、蓋（46）が赤く発色している。S I 1004からは9世紀中頃のもので、須恵器の器形とは違って、器高が高く口縁端部が僅かに内湾気味に肥厚する小振りの壺（21）が出土している。S I 1004からは、底径の大きい赤焼土器壺（20）も出土している。9世紀後半以降のものではS I 1002やS I 1003から、底径が小さく器高がやや高い須恵器壺に似た器形のもの（3～5・15）が出土している。S I 1002からは、糸切り底部に高台の付くもの（6）が出土している。

石製品は、古墳時代のS I 1032から、滑石製の双孔円盤（61）が出土している。S I 1031からは、円盤形で片面の中心に未完通の浅く小さな穴が開く凝灰岩製の製品（55）が出土している。

#### 参考文献

- ・山形市市史編さん委員会・山形市市史編集委員会編 1973 『山形市史』上巻（原始・古代・中世編）
- ・山形市教育委員会・山武考古学研究所 2001 『一ノ坪遺跡』山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第12集
- ・山形市成沢土地区画調整組合・山形市教育委員会 2004 『成沢西遺跡発掘調査報告書』山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第21集
- ・天童市市史編さん委員会編 1978 『天童市史』別巻上（地理・考古編）天童市
- ・天童市市史編さん委員会編 1981 『天童市史』上巻（原始・古代・中世編）天童市
- ・米地文夫・阿子島功 1982 「II 地形分類」『土地基本分類調査 山形』 山形県
- ・山形県地方課編 1963 『山形県市町村合併誌』 山形県

表2 北向遺跡ピット一覧表

遺構No.	出土位置 (グリッド)	平面形状	計測値 (cm)			備 考
			長軸	短軸	深さ	
SP 1001	48 - 72	円形	36	34	25	
SP 1007	50 - 73	楕円形	40	36	30	
SP 1008	50 - 73	楕円形	34	30	14	
SP 1009	50 - 73	円形	44	42	20	
SP 1011	50 - 74	楕円形	48	38	32	S I 1005 内
SP 1013	49 - 71	円形	30	27	12	
SP 1014	51 - 74	円形	30	28	9	
SP 1015	50 - 74	楕円形	34	28	26	
SP 1017	50 - 74	不明	30	不明	5	
SP 1018	51 - 74	円形	43	42	12	
SP 1020	51 - 74	楕円形	41	35	9	
SP 1025	49 - 72	楕円形	37	34	25	
SP 1026	49 - 73	円形	40	40	24	
SP 1027	49 - 73	楕円形	37	31	13	
SP 1028	49 - 73	楕円形	36	32	29	
SP 1044	40 - 71	楕円形	44	29	29	
SP 1045	50 - 71	楕円形	29	23	6	
SP 1046	39 - 71	円形	22	22	11	
SP 1047	39 - 71	略円形	25	23	4	
SP 1048	39 - 71	略円形	29	29	19	
SP 1049	39 - 71	略円形	30	29	10	
SP 1050	39 - 71	略円形	35	32	19	
SP 1052	49 - 72	円形	43	42	32	S I 1004 内
SP 1053	49 - 72	円形	34	33	14	S I 1004 内
SP 1054	52 - 74	不整円形	38	32	10	S I 1003 内
SP 1055	50 - 74	楕円形	44	32	26	S I 1005 内
SP 1056	52 - 74	楕円形	54	45	28	S I 1002 内

表3 北向遺跡各遺構土層注記表

遺構番号	セクション記号	層序	土色	土質	注記
基本土層 試掘坑	(A) (B)	I	10YR3/2	シルト 表土(耕作土)	
基本土層 試掘坑	(A) (B)	II	10YR3/3	シルト 表土	
基本土層 試掘坑	(A) (B)	III	10YR4/3	シルト	
基本土層 試掘坑	(A)	IV	10YR5/6	シルト	
基本土層 試掘坑	(A)	V	10YR5/6	シルト	
基本土層 試掘坑	(A)	VI	10YR3/4	シルト	
基本土層 試掘坑	(A) (B)	VII		砂礫層	細砂、繩（φ5～50mm）
基本土層 試掘坑	(B)	VIII	10YR3/3	シルト	
SI1002 ベルト	A/B	1	10YR2/1	シルト	炭化粒子が少々混じる
SI1002 カマド	A/B	1	10YR3/2	シルト	炭化材、焼土ブロック（φ2～10mm）が混じる
SI1002 カマド	A/B	2	10YR4/3	シルト	炭化材、焼土ブロック（φ5～20mm）が混じる
SI1002 カマド	B	3	10YR4/3	シルト	
SI1003 調査区壁	A	1	10YR3/1	シルト	
SI1003 調査区壁	A	2	10YR3/2	シルト	炭化粒子、焼土ブロック（φ2～5mm）が混じる
SI1003 調査区壁	A	3	10YR4/2	シルト	燒土粒子、焼土ブロック（φ2～10mm）、炭化粒子が混じる
SI1003 カマド	A/B	1	10YR3/1	シルト	燒土粒子が少々混じる
SI1003 カマド	A/B	2	10YR3/2	シルト	焼土ブロック（φ10～50mm）が混じる
SI1003 カマド	A/B	3	10YR3/3	シルト	燒土粒子（φ2～5mm）、炭化粒子（φ2～10mm）が混じる
SI1004 ベルト	A/B	1	10YR3/1	シルト	炭化材が少々混じる
SI1004 ベルト	A/B	2	10YR2/1	シルト	
SI1004 ベルト	A/B	3	10YR4/2	シルト	炭化材が少々混じる
SI1004 ベルト	B	4	10YR2/2	シルト	
SI1004 ベルト	A/B	5	10YR5/4	シルト	10YR5/4ブロック（φ10～30mm）が混じる
SI1004 カマド	A/B	1	10YR3/1	シルト	
SI1004 カマド	A/B	2	10YR3/2	シルト	燒土粒子、焼土ブロック（φ5～10mm）、炭化粒子が混じる
SI1004 カマド	A/B	3	10YR3/1	シルト	燒土粒子、焼土ブロック（φ20～30mm）、炭化粒子が混じる
SI1004 カマド	B	4	10YR4/3	シルト	
SI1004 カマド	B	5	10YR3/4	シルト	均質、カマド構築材
SI1005 ベルト	A	1	10YR2/1	シルト	焼土ブロック（φ2～10mm）が混じる
SI1005 ベルト	A	2	10YR2/2	シルト	炭化材が少々混じる
SI1005 石組遺構（調査区壁）	B	1	10YR2/1	シルト	焼土ブロック（φ2～10mm）が混じる
SI1005 石組遺構（調査区壁）	B	2	10YR2/2	シルト	炭化材が少々混じる
SI1005 石組遺構（調査区壁）	B	3	10YR4/3	シルト	炭化材、焼土ブロック（φ2～10mm）が混じる
SI1005 石組遺構（調査区壁）	B	4	10YR4/5	シルト	
SI1029 ベルト	A	1	10YR3/3	シルト	均質
SI1029 カマド	A	1	10YR4/1	シルト	均質
SI1029 カマド	A	2	10YR4/2	シルト	燒土ブロック（φ2～5mm）が少々混じる
SI1030 調査区壁	A	1	10YR2/3	シルト	10YR4/3シルト粒子が少々混じる
SI1030 調査区壁	A	2	10YR3/3	シルト	10YR4/4シルトブロック（φ2～5mm）がやや多く混じる
SI1031 ベルト	A/B	1	10YR2/3	シルト	10YR4/3シルト粒子がやや多く混じる
SI1031 ベルト	A/B	2	10YR2/3	シルト	10YR4/3シルト粒子が多く混じる
SI1031 ベルト	A/B	3	10YR3/3	シルト	10YR4/3シルトブロック（φ2～5mm）が多く混じる
SI1031 ベルト	A	4	10YR3/4	シルト	10YR4/3シルトブロック（φ2～10mm）が多量に混じる
SI1031 ベルト	A/B	5	10YR3/3	シルト	10YR4/3シルトブロック（φ2～5mm）が多く混じる
SI1031 カマド	A/B	1	10YR3/3	シルト	10YR4/3シルト粒子が少々混じる
SI1031 カマド	A/B	2	10YR3/3	シルト	微跡が少々混じる
SI1031 カマド	A/B	3	10YR3/3	シルト	10YR4/3シルトブロック（φ2～5mm）が多く混じる
SI1031 カマド	A/B	4	10YR3/3	シルト	燒土ブロック（φ5～10mm）が多く混じる
SI1031 カマド	A/B	5	10YR3/3	シルト	10YR4/3シルト粒子が多く混じる、燒土粒子がやや多く混じる
SI1031 カマド	B	6	10YR3/4	シルト	10YR4/3シルト粒子がやや多く混じる、粘性強
SI1031 カマド	B	7	10YR3/3	シルト	均質、カマド構築材
SI1032 ベルト	A	1	10YR2/3	シルト	10YR4/3シルト粒子がやや多く混じる
SI1032 ベルト	A	2	10YR3/3	シルト	10YR4/3シルトブロック（φ2～5mm）が多量に混じる、10YR4/4シルトブロック（φ2～10mm）が多量に混じる
SI1032 EK 1	B	1	10YR2/3	シルト	10YR4/3シルトブロック（φ2～5mm）がやや多く混じる
SI1033 ベルト・壁	A/B	1	10YR2/3	シルト	小窪（φ2～5mm）が多く混じる
SI1033 ベルト・壁	A/B	2	10YR2/3	シルト	小窪（φ2～5mm）が少々混じる
SI1033 ベルト・壁	A/B	3	10YR2/3	シルト	10YR4/4シルト粒子がやや多く混じる
SI1033 ベルト・壁	A/B	4	10YR3/3	シルト	10YR4/4シルト粒子がやや多く混じる
SI1033 ベルト・壁	A	5	10YR4/4	砂質土	細砂が多量に混じる
SI1033 ベルト・壁	A	6	10YR2/3	砂質土	細砂が多量に混じる

通構番号	セクション記号	層序	土色	土質	注記
SI1033	ベルト・壁	A	7	10YR4/4	砂質土 細砂が多量に混じる
SI1034	ベルト	A/B	1	10YR2/3	シルト 炭化物粒子がやや多く混じる
SI1034	ベルト	A/B	2	10YR2/3	シルト 炭化物粒子が少量混じる、焼土ブロック（φ 2～5mm）やや多く混じる
SI1034	ベルト	A/B	3	10YR3/3	シルト 10YR4/3 シルト粒子が多く混じる
SI1034	ベルト	B	4	10YR2/3	シルト 粘土、10YR4/3 シルトブロック
SI1034	ベルト	B	5	10YR2/2	シルト 10YR4/3 シルトブロック（φ 2～5mm）が多く混じる、底面附近に焼土ブロック（φ 3～5mm）が多く混じる
SI1034	EP4	A	6	10YR2/3	シルト 10YR4/3 シルトブロック（φ 3～10mm）が多量に混じる
SI1034	EP4	A	7	10YR3/3	シルト 焼土ブロック（φ 3～5mm）が多量に混じる
SI1034	EP4	A	8	10YR3/3	シルト 10YR4/3 シルトブロック（φ 3～10mm）が多量に混じる
SI1034	EP4	A	9	10YR3/4	シルト 10YR4/3 シルトブロック（φ 3～10mm）が多く混じる
SI1034	ベルト	A	10	10YR3/3	シルト 掘り方、10YR4/3 シルト粒子がやや多く混じる、焼土粒子がやや多く混じる
SI1034	EP 2	D	1	10YR3/3	シルト 粘土、10YR4/3 シルト粒子が多く混じる。焼土ブロック（φ 3～5mm）が多く混じる
SI1034	EP 2	D	2	10YR2/2	シルト 10YR4/3 シルトブロック（φ 3～10mm）が多く混じる
SI1034	EP 1	C	1	10YR2/3	シルト 10YR4/3 シルトブロック（φ 3～10mm）が多量に混じる
SI1034	EP6・9	G	1	10YR3/3	シルト 10YR4/3 シルトブロック（φ 3～5mm）が多量に混じる、焼土ブロック（φ 3～10mm）及び炭化物（φ 2～5mm）がやや多く混じる、硬い
SI1035	ベルト・壁	A/B	1	10YR3/2	シルト 10YR4/3 シルト粒子が少々混じる
SI1035	ベルト・壁	A/B	2	10YR3/3	シルト 10YR4/3 シルト粒子が少々混じる
SI1035	ベルト・壁	A/B	3	10YR3/3	シルト 粘土、10YR4/3 シルト粒子がやや多く混じる、硬い
SI1036	ベルト・壁	A/B	1	10YR3/2	シルト 10YR4/3 シルト粒子が少々混じる
SI1036	ベルト・壁	A/B	2	10YR3/3	シルト 10YR4/3 シルト粒子が少々混じる
SI1036	壁	A	3	10YR3/3	シルト 10YR4/3 シルト粒子がやや多く混じる
SI1036	EP 1	C	1	10YR3/2	シルト 10YR4/3 シルトブロック（φ 1～2mm）がやや多く混じる
SI1036	壁	A	1	10YR3/2	シルト 10YR4/3 シルトブロック（φ 3～5mm）がやや多く混じる
SI1036	壁	A	2	10YR3/2	シルト 10YR4/3 シルトブロック（φ 3～5mm）が多く混じる
SA1057	EP 1	B	1	10YR3/1	シルト
SA1057	EP 2	C	1	10YR3/2	シルト
SD567	ベルト	A	1	10YR3/2	シルト
SD567	ベルト	A	2	10YR4/2	シルト
SD1019	ベルト	A	1	10YR3/3	シルト
SK1006	半蔵	A	1	10YR3/1	シルト
SK1006	半蔵	A	2	10YR2/1	シルト 炭化物ブロック（φ 10～20mm）焼土粒子が混じる
SK1006	半蔵	A	3	10YR3/2	シルト 炭化粒子、炭化ブロック（φ 5～10mm）が混じる
SK1006	半蔵	A	4	10YR4/3	シルト 炭化粒子が混じる
SK1012	半蔵	A	1	10YR3/1	シルト
SK1012	半蔵	A	2	10YR3/3	シルト
SK1012	半蔵	A	3	10YR4/3	シルト
SK1021	半蔵	A	1	10YR3/1	シルト
SK1021	半蔵	A	2	10YR4/2	シルト
SK1022	半蔵	A	1	10YR3/1	シルト 炭化材（φ 10～20mm）が混じる
SK1022	半蔵	A	2	10YR4/4	シルト
SK1023	半蔵	A	1	10YR3/3	シルト
SK1024	半蔵	A	1	10YR3/1	シルト
SK1024	半蔵	A	2	10YR4/2	シルト
SK1038	半蔵	A	1	10YR3/3	シルト 10YR4/3 シルト粒子が少々混じる
SK1038	半蔵	A	2	10YR3/3	シルト 10YR4/3 シルト粒子が多く混じる
SK1038	半蔵	A	3	10YR3/4	シルト 10YR4/3 シルトブロック（φ 3～5mm）が多く混じる
SK1039	半蔵	A	1	10YR2/3	シルト 細砂、小礫が多く混じる。しまり良、粘性有。
SK1039	半蔵	A	2	10YR3/3	シルト 褐色シルト粒子が多く混じる。しまり良、粘性有。
SK1040	半蔵	A	1	10YR3/3	シルト 10YR4/3 シルト粒子が多く混じる
SK1040	半蔵	A	2	10YR3/4	シルト 10YR4/3 シルトブロック（φ 3～5mm）が多く混じる
SK1041	調査区壁	A	1	10YR3/3	シルト 10YR4/3 シルト粒子が少々混じる
SK1041	半蔵	A	2	10YR3/3	シルト 10YR4/3 シルト粒子がやや多く混じる
SK1042	半蔵	A	1	10YR3/1	シルト 10YR4/3 シルト粒子がやや多く混じる
SK1043	半蔵	A	1	10YR3/1	シルト 10YR4/3 シルト粒子が少々混じる
SP1007	半蔵	A	1	10YR3/4	シルト 炭化材が混じる
SP1007	半蔵	A	2	10YR4/3	シルト
SP1007	半蔵	A	3	10YR2/1	柱根
SP1008	半蔵	A	1	10YR3/1	シルト
SP1008	半蔵	A	2	10YR4/3	シルト

遺構番号	セクション記号	層序	土色	土質	注記
SP1009	平裁	A	1	10YR3/1	シルト
SP1009	平裁	A	2	10YR4/3	シルト
SP1011	平裁	A	1	10YR3/1	シルト
SP1011	平裁	A	2	10YR3/3	シルト
SP1011	平裁	A	3	10YR4/3	シルト
SP1013	平裁	A	1	10YR3/1	シルト
SP1013	平裁	A	2	10YR3/3	シルト
SP1014	平裁	A	1	10YR3/1	シルト
SP1056	平裁	A	1	10YR3/1	シルト 炭化ブロック（ $\phi$ 10 ~ 40mm）、燒土ブロック（ $\phi$ 10 ~ 20mm） が多く混じる

表4 北向跡遺出土遺物觀察表

番号	出土地点	種類	形態	剖面 (cm)	造成	胎土	色調	調整指正		成因	備考		
								外側	内側				
1	SH002	祖母器	环	(14.6)	覆瓦・瓦	白色砂、透明砂、黑色 砂	内：10BG5-1 青灰。外： 10BG5-1 青灰	ロクロ調整	ロクロ調整	回転差切り	右回転		
2	SH002	祖母器	环	6.0	覆瓦・瓦	白色砂	内：10BG5-1 青灰。外： 10BG5-1 青灰	ロクロ調整	ロクロ調整	右回転差切り	右回転		
3	SH002	赤堀土器	耳	13.4	5.4	5.0	陶化層・瓦	白色粗面。黑色粗面	内：5YR7-2 灰白。外： 5YR7-2 灰白	ロクロ調整	ロクロ調整	回転差切り	右回転
4	SH002	赤堀土器	环	5.2	陶化層・瓦	黑色粗面多量。半透 明砂多量	内：5YR7-2 灰白。外： 5YR7-2 灰白	ロクロ調整	ロクロ調整	回転差切り	右回転		
5	SH002	赤堀土器	环	6.0	陶化層・瓦	半透明砂。黑色粗面。 黑色粗面	内：10YR7-6 青黄灰。外： 10YR7-6 青黄灰	ロクロ調整	ロクロ調整	回転差切り	右回転。青 白。黒。青黄。		
6	SH002	赤堀土器	右环	(6.4)	陶化層・瓦	白色砂。半透明砂	内：25YR7-7 青灰。外： 25YR7-7 青灰	ロクロ調整	ロクロ調整	回転差切り	右回転。右 回転。右回 転。ナメ。		
7	SH002	赤堀土器	右环	(6.2)	陶化層・普通	半褐色砂。陶化層少 量。白色砂少量	内：NL5 黑。5-10BG5-2	ロクロ調整	ロクロ調整	回転差切り	右回転。右 回転。ナメ。		
8	SH002	土師器	裏	(20.0)	陶化層・瓦	白色砂。黑色粗面。 半透明砂	内：12BG7-4 深灰。外： 25YR7-4 深灰	10BG5-2コタ ジ。ナメ。ハサツ	10BG5-2コタ ジ。ナメ。ハサツ				
9	SH002	土師器	小型器	(16.6)	陶化層・瓦	半透明砂。白色粗面	内：10YR8-3 浅黄灰。外： 10YR8-3 浅黄灰	ロクロ調整	ロクロ調整	回転差切り			
10	SH002	赤堀土器	裏	(23.1)		半透明砂	内：10YR8-4 浅黄灰。外： 10YR8-4 浅黄灰	ロクロ調整	ロクロ調整				
11	SH002	赤堀土器	裏		陶化層・瓦	半透明砂。白色粗面	内：10YR8-4 浅黄灰	ロクロ調整	ロクロ調整				
12	SH002	祖母器	裏		覆瓦	黑色粗面。半透明	内：10BG5-1 青灰。外： 10BG5-1 青灰	平行タテキ直 接	同心円アラ直 接				
13	SH002	土師器	小型器	(10.5)	陶化層・瓦	半透明砂。黑色粗面	内：10YR8-4 浅黄灰。外： 25YR8-4 浅黄灰	10BG5-2コタ ジ。ナメ。ハサツ	10BG5-2コタ ジ。ナメ。ハサツ				
14	SH002	祖母器	环	(12.4)	(9.0)	4.2	覆瓦・瓦	白色砂	5-10BG5-1 青灰。外： 10BG5-1 青灰	ロクロ調整	回転差切り	右回転	
15	SH002	赤堀土器	环	(13.3)	5.5	5.0	陶化層・瓦	白色砂。黑色粗面。 黑色粗面	内：7YR7-3 浅黄灰。外： 25YR8-2 浅黄灰	ロクロ調整	ロクロ調整	回転差切り	右回転
16	SH002	土師器	裏	(25.9)	陶化層・瓦	白色砂。黑色粗面。 黑色少量	内：5YR6-6 灰。外： 25YR6-3 深灰	下部ナメ。ナメ 直接。ナメ。輪 縞の凹凸。	ナメ。輪 縞。ナメ。直 接。				
17	SH002	土師器	裏	(10.0)	陶化層・瓦	白色砂。黑色粗面。 黑色少量	内：5YR6-6 灰。外： 25YR6-3 深灰	下部ナメ。ナメ 直接。	ナメ。輪 縞。				
18	SH004	祖母器	环	11.5	2.6	3.6	覆瓦・瓦	半透明砂多量	内：25YR1-10R6-9 青灰。外： 10BG5-1 青灰	ロクロ調整	ロクロ調整	回転ヘタ切 り直し	右回転 ナメ。
19	SH004	祖母器	环	(15.0)		覆瓦・瓦	白色粗面	内：10BG5-1 青灰。外： 10BG5-1 青灰	ロクロ調整	ロクロ調整			
20	SH004	赤堀土器	环	(8.0)		陶化・普通	半透明砂多量。白色 砂少量	内：5YR6-6 灰。外：5YR6-6 灰	ロクロ調整	ロクロ調整	ヘリテ		
21	SH004	赤堀土器	环	(10.9)	(7.4)	3.9	陶化・普通	白色砂少量。白色粗面。 白色少量	内：5YR7-6 灰。外：7YR7-6 灰	ロクロ調整	ロクロ調整	回転差切り	右回転
22	SH004	赤堀土器	环	(13.4)	(8.0)	6.2	陶化・普通	白色砂少量。白色粗面。 白色少量	内：25YR8-4 浅黄灰。外： 10YR8-4 浅黄灰	ロクロ調整。直 接。ナメ。ナメ。	10BG5-2コタ ジ。ナメ。ハサツ		
23	SH004	赤堀土器	裏	(20.4)		陶化・瓦	半透明砂多量。白色 砂少量	内：10YR8-4 浅黄灰。外： 25YR8-4 浅黄灰	ロクロ調整	ロクロ調整	ヘリテ		
24	SH004	赤堀土器	裏	(38.6)		陶化・瓦	半透明砂多量。白色 砂少量	内：10BG7-6 灰。外：7YR7-6 灰	10BG5-2コタ ジ。ナメ。ハサツ	10BG5-2コタ ジ。ナメ。ハサツ			
25	SH004	赤堀土器	裏	(20.0)		陶化・普通	白色多量。透明砂少 量	内：25YR2-2 浅灰。外： 25YR6-6 灰	ロクロ調整	ロクロ調整			
26	SH004	赤堀土器	小型器	(14.0)		陶化・瓦	半透明砂多量。白色 砂少量	内：5YR7-4 深灰。外： 10YR5-2 浅黄	ロクロ調整	ロクロ調整			
27	SH004	祖母器	裏			覆瓦・瓦	白色砂少量。白色粗面。 白色少量	内：7YR7-3 灰。外： 25YR6-6 灰	平行タテキ直 接	同心円アラ直 接			
28	SH005	赤堀土器	环	5.6	陶化・瓦	半褐色砂多量	内：5YR6-6 灰。外： 25YR6-6 灰	ロクロ調整	ロクロ調整	回転差切り	右回転		
29	SH005	赤堀土器	右环	(6.8)	陶化・瓦	半褐色砂多量。白色 砂少量	内：10BG5-1 青灰。外： 10BG5-1 青灰	ロクロ調整	ロクロ調整	傾斜差切り ナメ。			
30	SH005	赤堀土器	右环	6.6	陶化・瓦	白色砂少量	内：25YR7-8 灰。外： 25YR6-6 灰	ロクロ調整	ロクロ調整	ナメ。ナメ。			
31	SH005	赤堀土器	右环	(7.6)	陶化・瓦	白色砂少量	内：N2-0 黑。外：5-10BG5-8 青灰	ロクロ調整。直 接。ナメ。	ナメ。ナメ。				
32	SH005	赤堀土器	右环	(10.0)	(9.4)	8.5	陶化・瓦	白色砂少量。白色粗 面	内：5YR7-0 灰。外： 25YR7-6 灰	ロクロ調整	白色砂少量。ヘ リテ。		
33	SH005	赤堀土器	裏	(20.4)		陶化・瓦	半透明砂多量。白色 砂少量	内：25YR7-6 灰。外： 10YR7-6 灰	ロクロ調整	ロクロ調整			

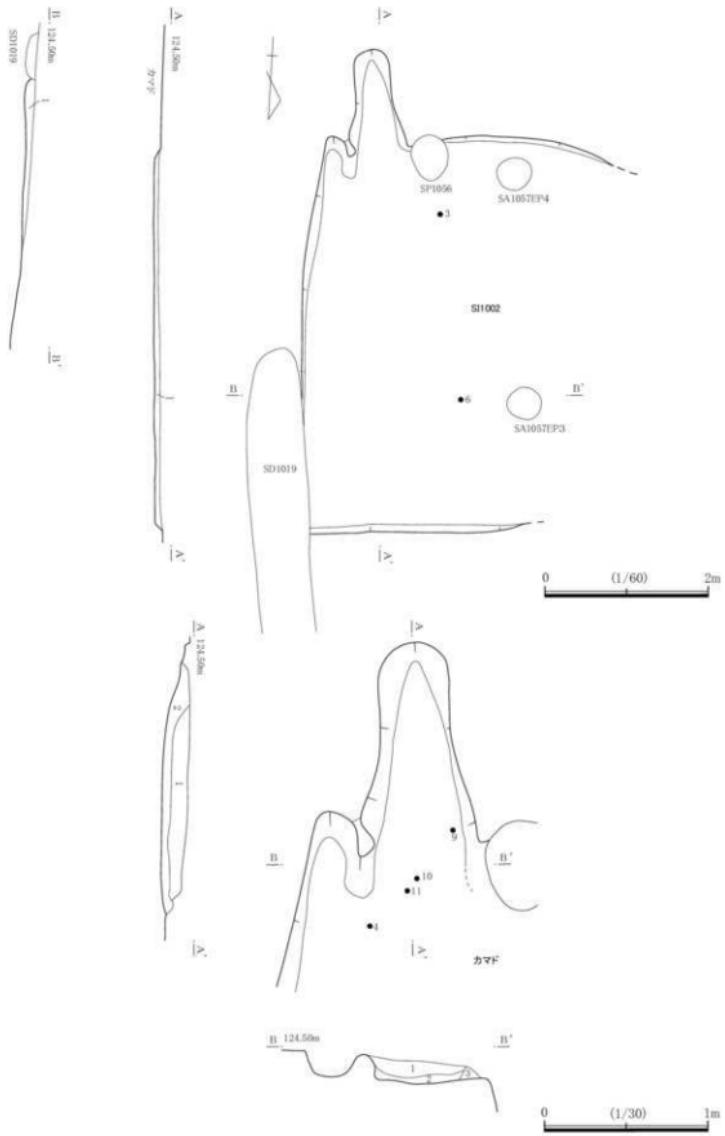
番号	出土地点	種類	性別	前頭面 (cm)			既述	船上	底面	溝堀直孔		既述	考案	
				111.0	既述	即述				内	外			
34	SH1005	赤土上部	裏	(111.0)			発化・良	内	5YR7-6 程。外: 7.25YR7-6 側面少量、半透明側面 少量	ロクロ調整 下平ハラコナ ド	ロクロ調整			
35	SH1005	土師器	裏	12.7	8.0	15.1	発化・普通	内	10YR7-3に近い黄褐色。 透明側面少量	10YR7-3に近い黄褐色。 外: 7.25YR6-6に近い程。 側面少量	10YR7-3コナ ド、崩部コナ ド、崩部ハラ コナ	崩部	崩部	
36	SH1029	内壁上部	洋	(112.7)	4.4		発化・良	内	半透明少多量、白色側面 少量	10YR7-3に近い黄褐色。 外: 7.25YR6-6 程。	10YR7-3コナ ド、崩部コナ ド、下平ハラ コナ	白色化度、崩 部少量	1.レザボ	
37	SH1029	土師器	裏	(14.2)			発化・小不 良	内	半透明少多量、白色側面 少量	10YR7-2 以下。外: 7.25YR 6 程。	10YR7-2コナ ド、崩部コナ ド、下平ハラ コナ			
38	SH1029	土師器	裏	(9.4)			発化・普通	内	7.0R 7-4 淡黃褐色。外: 7.25YR-4 淡黃褐色	7.0R 7-4 淡黃褐色。 外: 7.25YR-4 淡黃褐色	アカハタ直孔 ナガ	本葉底		
39	SH1029	泥質器	横板				発化・良	内	NS 5-1 黄褐色。外: NS 5-1 黄褐色	NS 5-1 黄褐色。	平行タタキ目 ナガ	上平斜隣込		
40	SH103	泥質器	洋	11.4	6.8	3.1	発化・良	内	白色粗砂、黑色側面 少量	10YR6-1 黄褐色。外: 7.25YR7-1 黄褐色	ロクロ調整	ロクロ調整	崩部丸切り	右回転
41	SH103	泥質器	洋	14.0	6.8	3.6	発化・良	内	白色側面少量、半透明 側面	10YR7-3に近い。外: 7.25YR7-3 側面少量	ロクロ調整 先端多量	ロクロ調整	崩部丸切り	右回転
42	SH103	泥質器	洋	(14.2)			発化・良	内	白色側面少量、小細 孔多量	10YR7-3 黄褐色。外: 7.25YR7-3 黄褐色	ロクロ調整	ロクロ調整	崩部ハラ切 リ	
43	SH103	泥質器	裏	(12.9)			発化・良	内	白色粗砂、黑色側面。 半透明側面	10YR6-1 黄褐色。外: 7.25YR6-1 黄褐色	ロクロ調整	ロクロ調整	崩部ハラ切 リ	
44	SH103	泥質器	洋	13.0	7.0	3.5	発化	内	白色粗砂。黑色側面	10YR7-2 淡黃褐色。外: 7.25YR7-2 淡黃褐色	ロクロ調整	ロクロ調整	右側面	右回転
45	SH103	泥質器	瓦質厚 (把手部)				発化・良	内	白色粗砂	内: 10YR5-1 黄褐色。把手 上: 10YR4-1 黄褐色。把手 下: 7.25YR4-4 細孔	ロクロ調整			
46	SH103	赤土上部	裏	(15.2)			発化・良	内	白色側面。赤土跡。黑 色砂	10YR6-8 程。			大脛部斜削 ハラ切月見 ナガ	
47	SH103	赤土上部	裏	(27.0)			発化・良	内	半透明砂。赤土跡。黑 色砂	10YR6-6 程。外: 7.25YR6-6 程。	ロクロ調整 崩部ハラコナ ド	崩部ロクロ 調整		
48	SH103	赤土上部	裏	(26.6)			発化・良	内	透明砂。黑色側面	10YR7-4 に近い程。外: 7.25YR7-4 に近い程	10YR7-4コナ ド、ロクロ調 整	ロクロナダ モ		
49	SH103	赤土上部	小型裏	(22.5)	(9.6)	12.5	発化・良	内	半透明少多量。白色側 面	10YR7-6 程。外: 7.25YR7-6 程。	ロクロ調整	ロクロ調整		
50	SH103	赤土上部	裏			7.6	発化・良	内	白色側面少量。黑色側 面少量	10YR7-6 有。外: 7.25YR7-4 に近い程	ロクロ調整 崩部ハラコナ ド	崩部ロクロ 調整	右回転	
51	SH103	赤土上部	小型裏	(14.6)			発化・普通	内	白色側面少量。半透明 側面	10YR8-6 黄褐色。外: 7.25YR8-6 黄褐色	崩部ハラコナ ド	崩部ロクロ 調整	右回転	
52	SH103	赤土上部	裏	(18.5)			発化・良	内	白色側面。半透明側面	10YR8-8 淡明黄褐色。外: 7.25YR8-8 淡明黄褐色	10YR8-8コナ ド	ハラ且		
53	SH103	土師器	小型裏	(12.7)			発化・良	内	赤色側面少多量。半透明 側面	10YR8-4 淡黃褐色。外: 7.25YR8-4 淡黃褐色	10YR8-4コナ ド、崩部ナダ モ	崩部ロクロ 調整	右回転	
54	SH103	泥質器	裏				発化・良	内	黑色側面。半透明側面	10YR5-2 淡黃褐色。外: 7.25YR5-2 淡黃褐色	平行タタキ直 孔			
55	SH102	石質品	内盤	直(4.3)	幅(29)	厚(1.1)	無(9.6)	内	7.25YR7-2	10YR7-2コナ ド	10YR7-2コナ ド、崩部ハラ コナド	右回転		
56	SH102	土師器	洋	(33.7)			発化・良	内	半透明側面少量	10YR6-6 程。外: 7.25YR6-6 程。	ロクロ調整 崩部ハラ コナド	崩部ロクロ 調整	右回転	
57	SH102	土師器	洋	(34.0)			発化・良	内	白色側面少量。(メ細 孔)	10YR6-6 程。外: 7.25YR6-6 程。	10YR6-6コナ ド	10YR6-6コナ ド、崩部ハラ コナド	右回転	
58	SH102	土師器	洋	(32.2)			発化・良	内	白色側面少量。(メ細 孔)	10YR6-6 程。外: 7.25YR6-6 程。	10YR6-6コナ ド	10YR6-6コナ ド、崩部ハラ コナド	右回転	
59	SH102	土師器	洋	(31.4)			発化・良	内	白色側面少量。(メ細 孔)	10YR6-6 程。外: 7.25YR6-6 程。	10YR6-6コナ ド、崩部ハラ コナド	10YR6-6コナ ド、崩部ハラ コナド	右回転	
60	SH102	泥質器	裏				発化・良	内	白色側面少量。崩部少 量	内: NS-5-1 黄。外: 7.25YR-1 黄	平行タタキ直 孔			
61	SH102	石質品	有凹痕	直(3.2)	幅(3.0)	厚(0.5)	無(4.95g)	内	7.25YR-1 黄。外: 7.25YR-1 黄	ロクロ調整	ロクロ調整	右回転		
62	SH102	泥質器	洋	13.4	9.8	4.0	発化・良	内	白色側面多量。白色側 面少量。半透明側面多量	10YR6-6 黄。外: 7.25YR6-6 黄	ロクロ調整	ロクロ調整	右回転	
63	SH102	土師器	洋	13.4	8.8	4.0	発化・良	内	白色粗砂。半透明側面 少量	10YR6-6 黄。外: 7.25YR6-6 黄	ロクロ調整	ロクロ調整	右回転	
64	SH102	泥質器	洋	13.7	9.7	3.6	発化・良	内	白色側面少量。半透明 側面少量	10YR6-6 黄。外: 7.25YR6-6 黄	ロクロ調整	ロクロ調整	右回転	

番号	出土地点	種類	機種	計測箇所(%)			造成	地土	色調	調整方法		底部	参考
				11段	底段	底高				外側	内側		
65	SII034	單色器	坪	11.0	9.0	4.1	灘瓦・瓦	半透明地磚、黑色地磚、白色地磚	内: 55%・19%、外: 55%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	右回転
66	SII034	單色器	坪	11.7	9.0	4.0	灘瓦・瓦	半透明地磚、黑色地磚、白色地磚	内: 55%・19%、外: 55%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	右回転
67	SII034	單色器	坪	14.1	7.5	3.7	灘瓦・瓦	黑色地磚、黑色地磚	内: 25%・19%、外: 25%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	右回転
68	SII034	單色器	坪	14.3	9.2	3.4	灘瓦・瓦	白色地磚、半透明地磚	内: 55%・1%、外: 55%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	右回転
69	SII034	單色器	坪	14.9	8.5	3.5	灘瓦・瓦	半透明地磚、白色地磚	内: 25%・1%、外: 55%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	右回転
70	SII034	單色器	坪	14.8	8.7	3.3	灘瓦・瓦	半透明地磚	内: 55%・1%、外: 55%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	右回転
71	SII034	單色器	坪	15.4	7.7	3.4	灘瓦・瓦	黑色地磚、半透明地磚	内: 25%・2%、外: 25%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	右回転
72	SII034	單色器	坪	15.0	10.0	4.0	灘瓦・瓦	黑色地磚、白色地磚	内: 25%・1%、外: 55%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	右回転
73	SII034	單色器	坪	11.2	8.8	3.7	灘瓦・瓦	半透明地磚	内: 75%・1%、外: 55%・1	初期化	ロクロ調整	初期化	右回転
74	SII034	單色器	坪	12.9	8.5	4.1	灘瓦・瓦	黑色地磚少量	内: 55%・1%、外: 55%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	
75	SII034	單色器	台坪	14.8	10.0	4.6	灘瓦・瓦	半透明地磚、白色地磚	内: 25%・1%、外: 55%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	右回転
76	SII034	單色器	台坪	12.0	9.0	3.8	灘瓦・瓦	半透明地磚多量、白色地磚少量	内: 10%・8%、外: 55%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	右回転
77	SII034	單色器	台坪		8.4		灘瓦・瓦	白色地磚多量	内: 55%・1%、外: 25%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	右回転
78	SII034	單色器	台坪		6.7		灘瓦・瓦	白色地磚少量、黑色地磚多量	内: 35%・0%、外: 75%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	右回転
79	SII034	單色器	台坪		7.0		灘瓦・瓦	白色地磚多量、黑色地磚少量	内: 10%・8%・2%、外: 55%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	
80	SII034	單色器	台坪		8.2		灘瓦・瓦	半透明地磚多量、白色地磚少量	内: 25%・1%、外: 25%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	
81	SII034	單色器	塗	15.2			灘瓦・瓦	粗砂多量、黑色地磚多量	内: 25%・1%、外: 25%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	左回転
82	SII034	單色器	塗	14.5	37		灘瓦・瓦	粗砂多量、半透明地磚多量	内: 25%・1%、外: 25%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	左回転
83	SII034	單色器	塗	14.0	29		灘瓦・瓦	粗砂多量、黑色地磚・半透明地磚多量	内: 25%・1%、外: 55%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	左回転
84	SII034	單色器	塗	14.9			灘瓦・瓦	白色地磚多量、黑色地磚多量	内: 25%・1%、外: 25%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	左回転
85	SII034	單色器	坪	11.2	7.4	4.1	陶化・不良	半透明地磚多量、黑色地磚多量	内: 55%・3%、外: 55%・1	ロクロ調整	ロクロ調整	初期化	右回転
86	SII034	内底上細目	坪	22.2	7.8	8.4	陶化・瓦	白色地磚少量、半透明地磚多量、透明地磚少量	内: 32%・0%、外: 10%・8%	初期化	初期化、下限ヶき		
87	SII034	内底上細目	坪	12.0			陶化・瓦	半透明地磚多量、白色地磚少量	内: 32%・0%、外: 10%・8%	初期化	初期化	初期化	
88	SII034	内底上細目	塗	22.0	(12.0)		陶化・瓦	白色地磚多量	内: 32%・0%、外: 10%・8%	初期化	初期化	初期化	初期化
89	SII034	半焼土面	塗	22.6	(8.8)		陶化・瓦	白色地磚多量	内: 10%・2%・6%、外: 10%・8%	初期化	初期化	初期化	初期化
90	SII034	半燒土面	塗	22.8			陶化・瓦	白色地磚多量、透明地磚少量	内: 25%・3%・6%、外: 75%・8%	初期化	初期化	初期化	

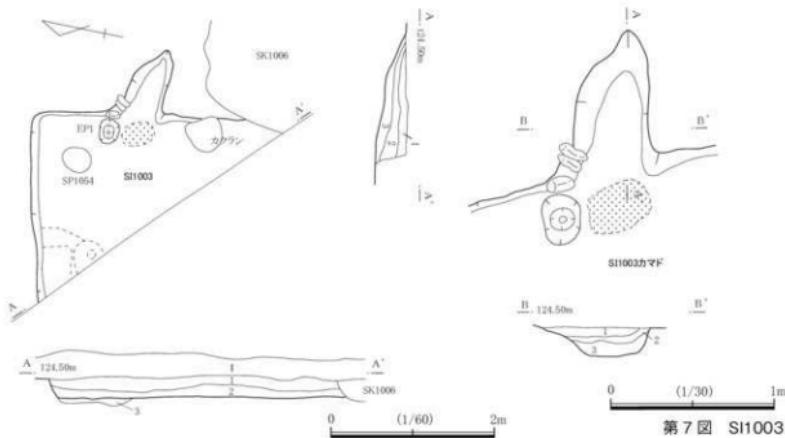
番号	出土地点	種類	性別	射測量 (cm)			被成	胎土	色調	調査方法		班別	備考
				13時	直徑	高さ				内面	外面		
91	SH1038	赤陶土器	妻	13.6			磨化・良	白色陶砂多量、胎母色 内: SYR6-6 程。外: SYR6-6 程	内: SYR7-4/12.6cm 程。外: SYR7-3/12.6cm 程。	ロクロ調査	ロクロ調査		
92	SH1034	赤陶土器	妻	21.2			磨化・良	白色陶砂多量、透明陶 少量	内: SYR7-4/12.6cm 程。外: SYR7-3/12.6cm 程	ロクロ調査	ロクロ調査		
93	SH1034	土師器	妻	14.8				赤陶色陶砂多量、透明陶 少量、泥色陶砂多量	内: SYR7-4/12.6cm 程。外: SYR7-3/12.6cm 程	13時調査ロコチ デ。胎部ハケ 日	13時調査ロコチ デ。胎部ハケ 日		
94	SH1038	土師器	妻		7.0		磨化・良	半透明陶砂。胎部陶 砂	内: SYR6-6 程。外: 2 SYR6-6 程	輪部下端ハケ 日	ハケ日	木葉置	外側はハケ 日上見られ るが剥離し て不明
95	SH1038	圓筒器	粗面器				磨化・良	白色陶砂多量、透明陶 少量、泥色陶砂多量	内: N6-0 程。外: N4-0 程	ロクロ調査、 輪底タタキ後 ロクロ調査	同心円		鏡灰
96	SH1034	圓筒器	妻				磨化・良	白色陶砂多量、透明陶 少量、泥色陶砂多量	内: N6-0 程。外: N5-12.5cm 程	平行タタキ痕 日	青面灰アケル 灰		
97	SH1038	石製品	鉢石	8.0	1.1	幅2.9	第2.5	表面粗粒	SYR6-6 程				
98	SH1038	陶地土器類	母	12.0			磨化・良	胎母陶砂少量	内: N2-0 程。外: N2-0 程	胎丸處理、 胎丸挽き	胎丸挽き		
99	SH1038	圓筒器	耳	14.0	7.0	42	磨化・良	白色陶砂多量	内: SYR6-1/8cm。外: SYR6-1/8cm 程	ロクロ調査	ロクロ調査	回転系切り	右回転
100	SH1038	圓筒器	妻	15.2			磨化・良	白色陶砂多量	内: SYR7-1/8cm。外: SYR7-1/8cm 程	ロクロ調査	ロクロ調査	左岸深層回転 ヘタケ式	
101	SH1038	黑色土陶器	耳皿	7.3	3.0	12	磨化・良	胎母陶砂少量	内: N2-0 程。外: N2-0 程	胎丸處理。ハ セタタキ	胎丸處理。ハ セタタキ		
102	SH1051	圓筒器	耳		8.8		磨化・良	半透明陶砂や多量、白 色陶砂少量	内: SYR7-1/8cm。外: SYR7-1/8cm 程	ロクロ調査	ロクロ調査	ハケ取り削 リテ	
103	SH1034	土師器	妻		35.8		磨化・良	粗面器多量	内: SYR7-4/12.6cm 程。外: SYR7-3/12.6cm 程	13時調査ロコチ デ。胎部ハケ 日	13時調査ロコチ デ。胎部ハケ 日	左岸灰ヘタ ケ	
104	SH1038	圓筒器	妻	14.4			磨化・良	白色陶砂多量	内: N7-0 程。外: N5-6 程	ロクロ調査	ロクロ調査	左岸灰ヘタ ケ	
105	SD1019	圓筒器	(腹手附)				磨化・良	白色陶砂少量、胎丸觸 砂量	内: SYR7-1/8cm。外: SYR7-1/8cm 程	タタキ			
106	SK1006	圓筒器	台座		8.4		磨化・良	白色陶砂少量	内: SYR6-1/8cm。外: SYR6-1 程	ロクロ調査	ロクロ調査	高台點付村 子テ	
107	SK1006	圓筒器	台座		8.2		磨化・良	白色陶砂多量。白色陶砂 少量	内: 10YR6-1/8cm。外: SYR6-1/8cm 程	ロクロ調査	ロクロ調査	回転系切り	右回転
108	SK1006	赤陶土器	耳	12.7	6.4	44	磨化・良	半透明陶砂や多量	内: 10YR6-2/16cm。外: 10YR6-2/16cm 程	ロクロ調査	ロクロ調査	回転系切り	右回転
109	SK1006	赤陶土器	台所				磨化・良	半透明陶砂多量。赤陶 砂(焼成物)少量	内: 10YR6-1/8cm。外: SYR7-1/8cm 程	ロクロ調査	ロクロ調査	高台灰灰頭	
110	SK1006	圓筒器	台座				磨化・良	白色陶砂や多量	内: NS-0 程。外: NS-0 程	ロクロ調査	ロクロ調査		
111	SK1006	赤陶土器	妻	29.9			磨化・良	半透明陶砂や多量	内: 10YR6-2/16cm。外: SYR6-1/8cm 程	ロクロ調査	ロクロ調査		
112	SK1021	赤陶土器	妻		9.6		磨化・良	半透明陶砂少量、半透 明陶砂少量。胎丸陶 砂のや多量	内: 7.5YR7-4/12.6cm 程。外: SYR7-4/12.6cm 程	ロクロ調査	ロクロ調査		
113	SK1021	土師器	妻	20.0			磨化・良	半透明陶砂多量、胎丸陶 砂のや多量	内: 10YR6-1/8cm。外: SYR6-8 程	13時調査ロコチ デ。胎部ハケ 日	13時調査ロコチ デ。胎部ハケ 日		
114	SK1021	土師器	妻		8.8		磨化・普通	胎丸、半透明陶砂多量。 半透明陶砂(焼成物)や 少量	内: 10YR7-2/12cm 程。外: SYR7-4/12.6cm 程	ハケ日	ハケ日	木葉置	斜旗下邊尾 着
115	SK1042	土師器	妻	24.0			磨化・普通	胎丸陶砂多量。胎丸 砂のや多量	内: 10YR6-1/8cm。外: SYR7-2/12.6cm 程	13時調査ロコチ デ。胎部ハケ 日	13時調査ロコチ デ。胎部ハケ 日		
116	SK1043	圓筒器	耳	13.4	(5.6)	42	磨化・良	白色陶砂多量。黑色陶 砂のや多量	内: N7-0 程。外: N5-6 程	ロクロ調査	ロクロ調査	回転系切り	右回転
117	SP1025	圓筒器	台座	14.0	(9.9)	43	磨化・良	白色陶砂多量	内: 2SYR6-1 黄褐。外: SYR6-1 黑	ロクロ調査	ロクロ調査	高台點付村 子テ	
118	赤裸	圓筒器	耳	12.4	(6.2)	21	磨化・良	白色陶砂多量	内: SYR4-1 相近。外: SYR4-1 黑	ロクロ調査	ロクロ調査	斜面へタ ケリナダ	敷用混 合ナダ
119	赤裸	胎生土器	妻				胎生	胎母多量	内: SYR4-1 黑	胎生者 赤裸			



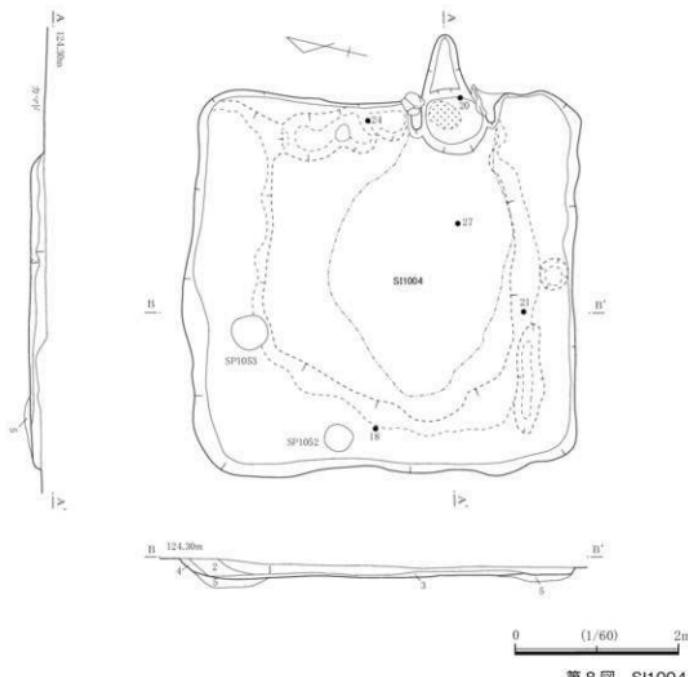
第5図 北向遺跡遺構配置図



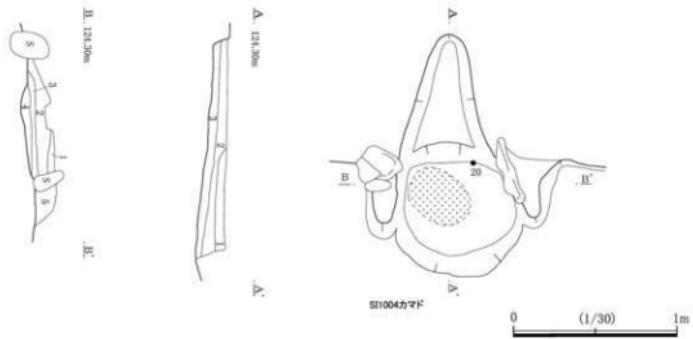
第6図 SI1002



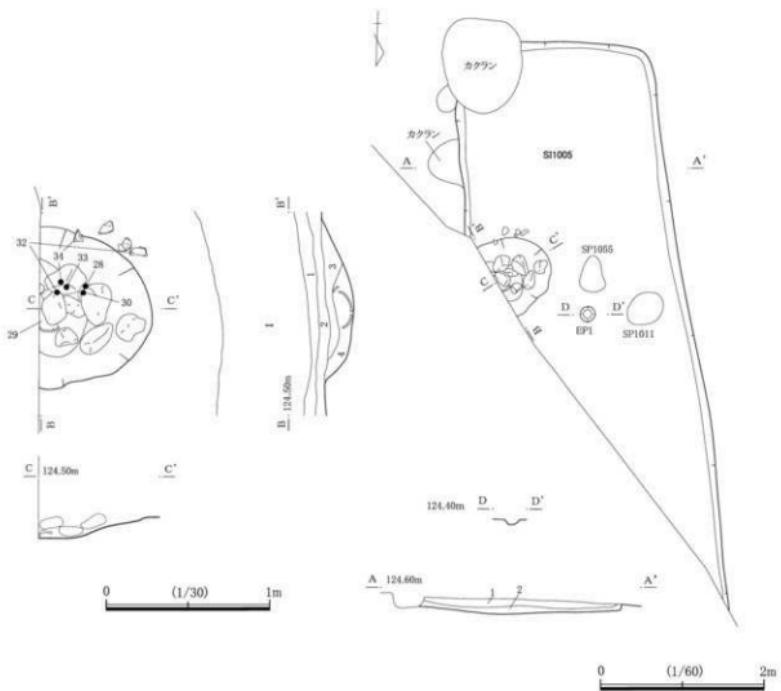
第7図 SI1003



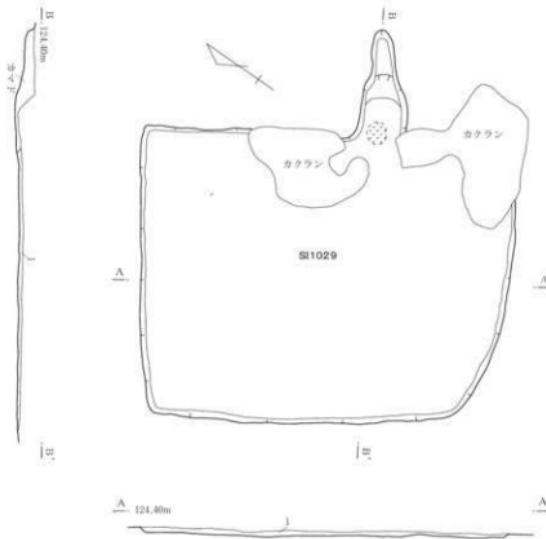
第8図 SI1004



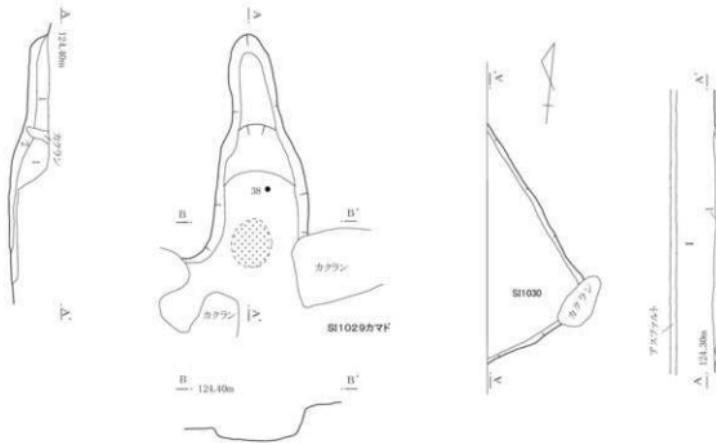
第9図 SI1004 カマド



第10図 SI1005

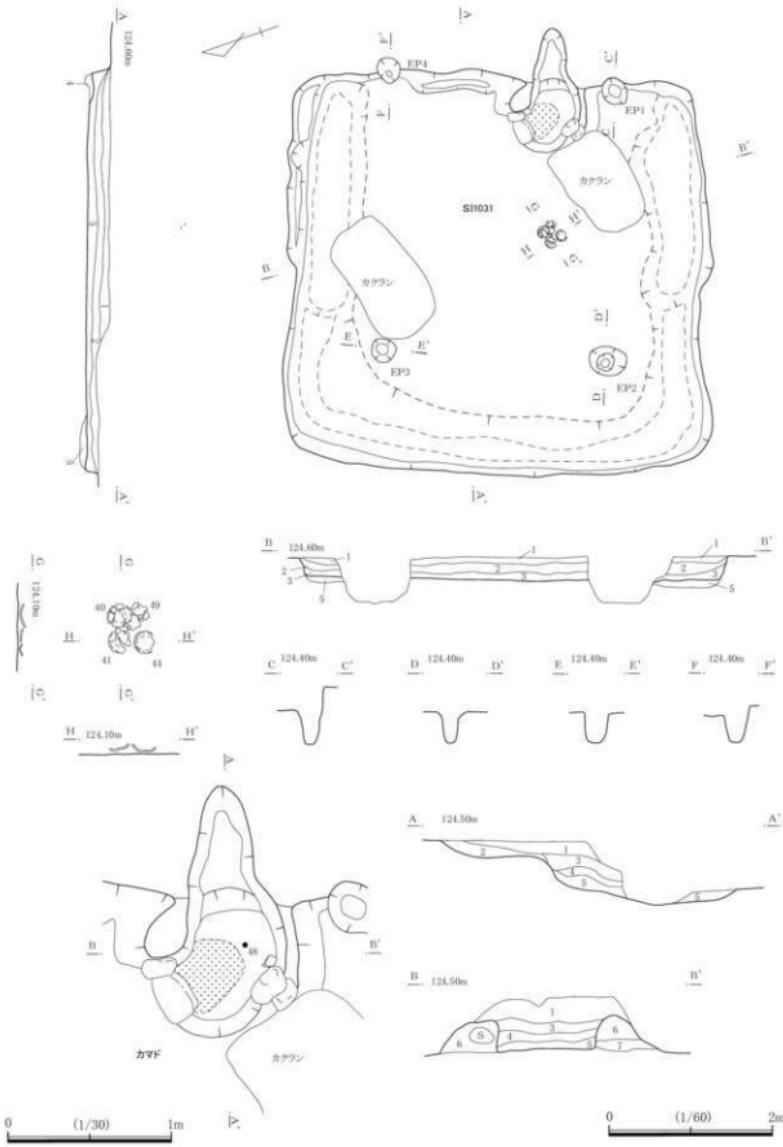


第11図 SI1029

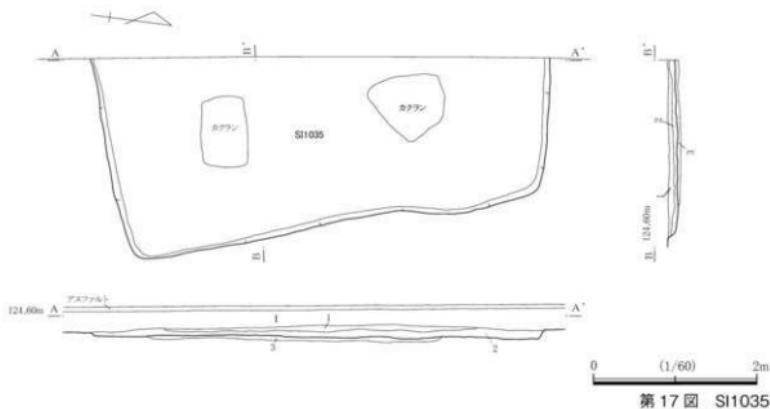
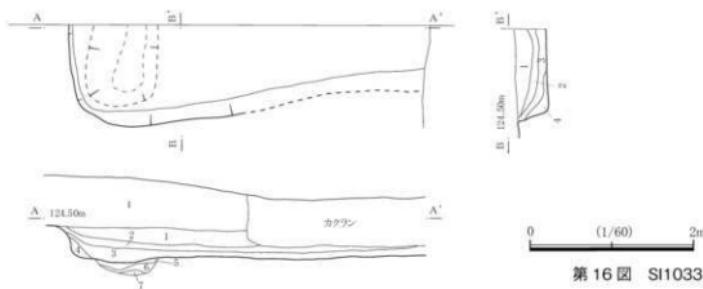
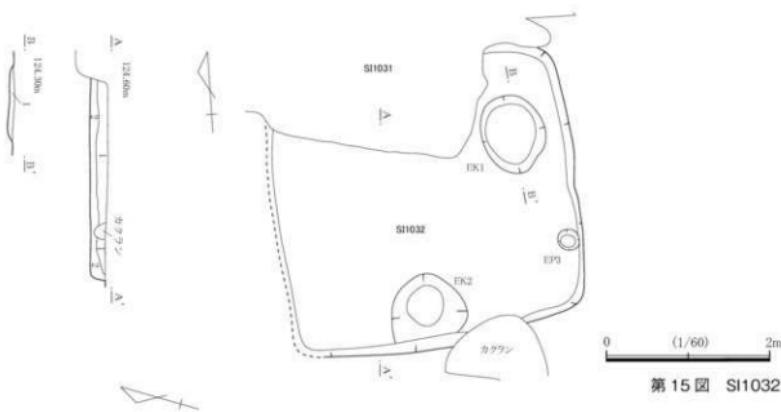


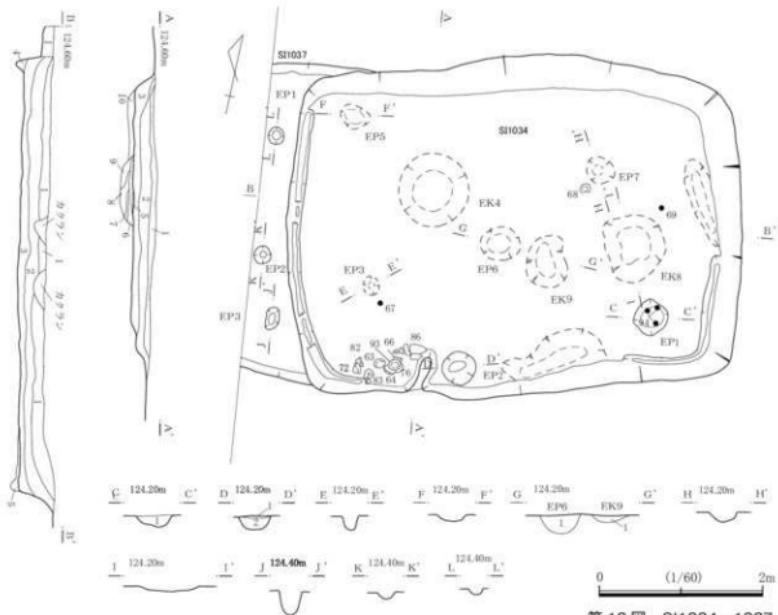
第12図 SI1029 カマド

第13図 SI1030

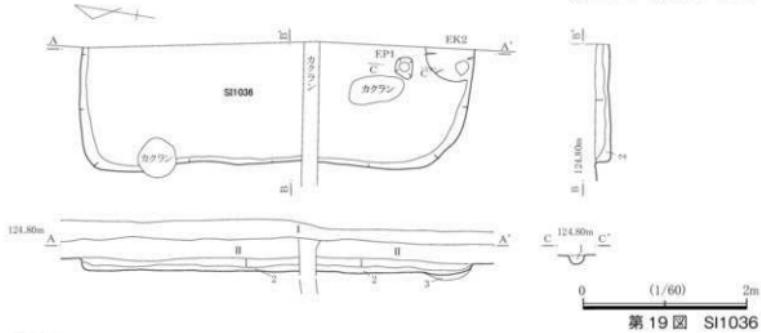


第14図 SI1031

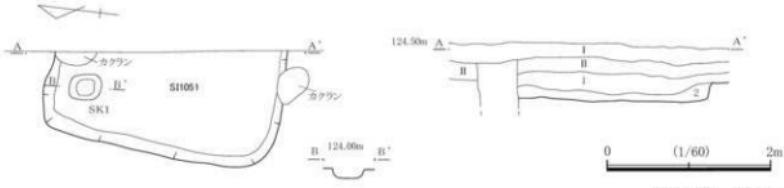




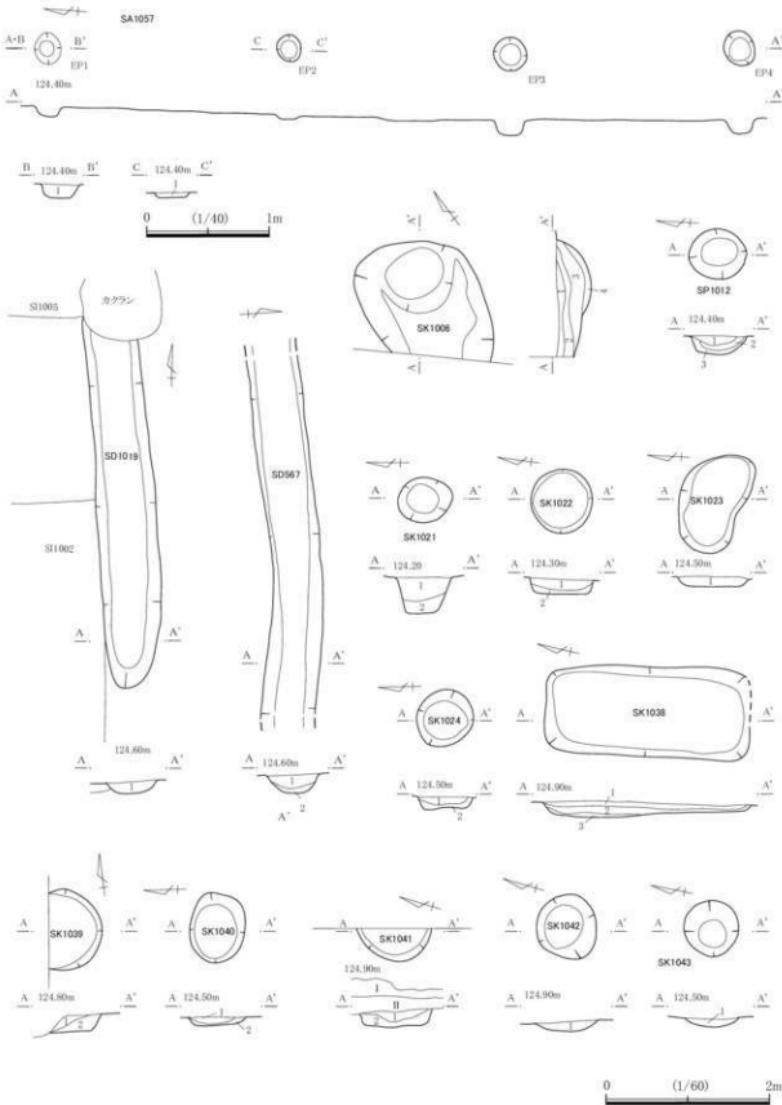
第18図 SI1034・1037



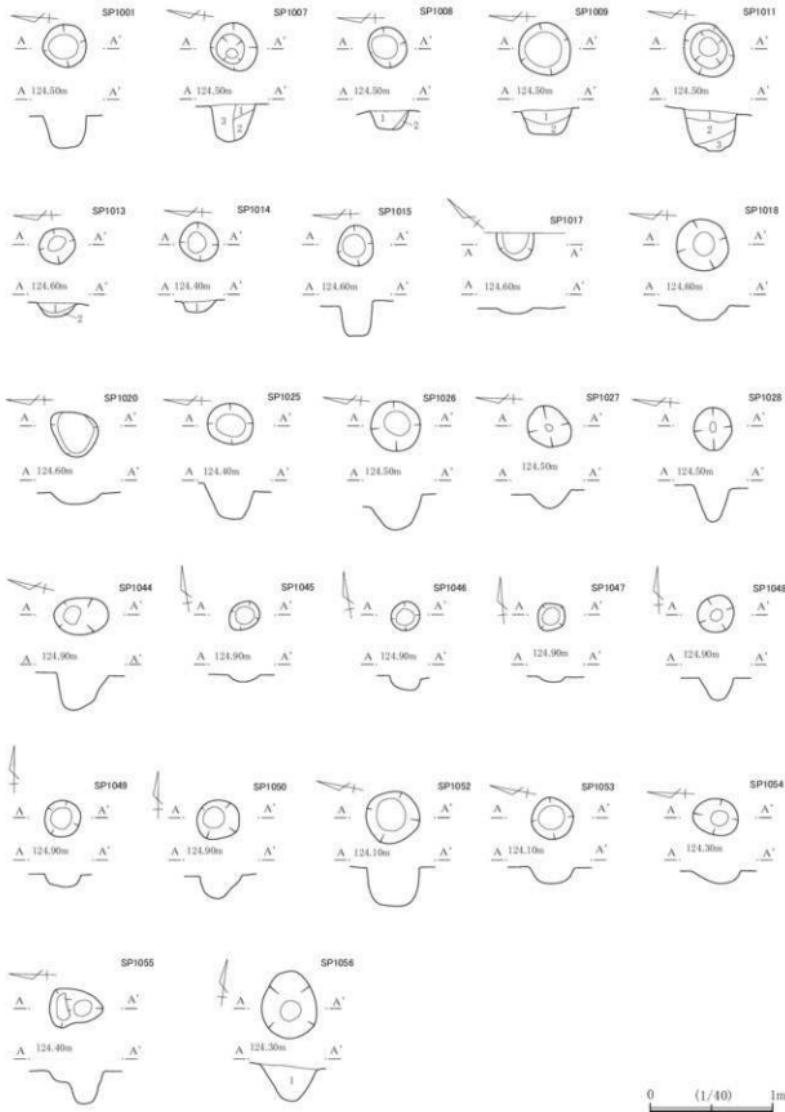
第19図 SI1036



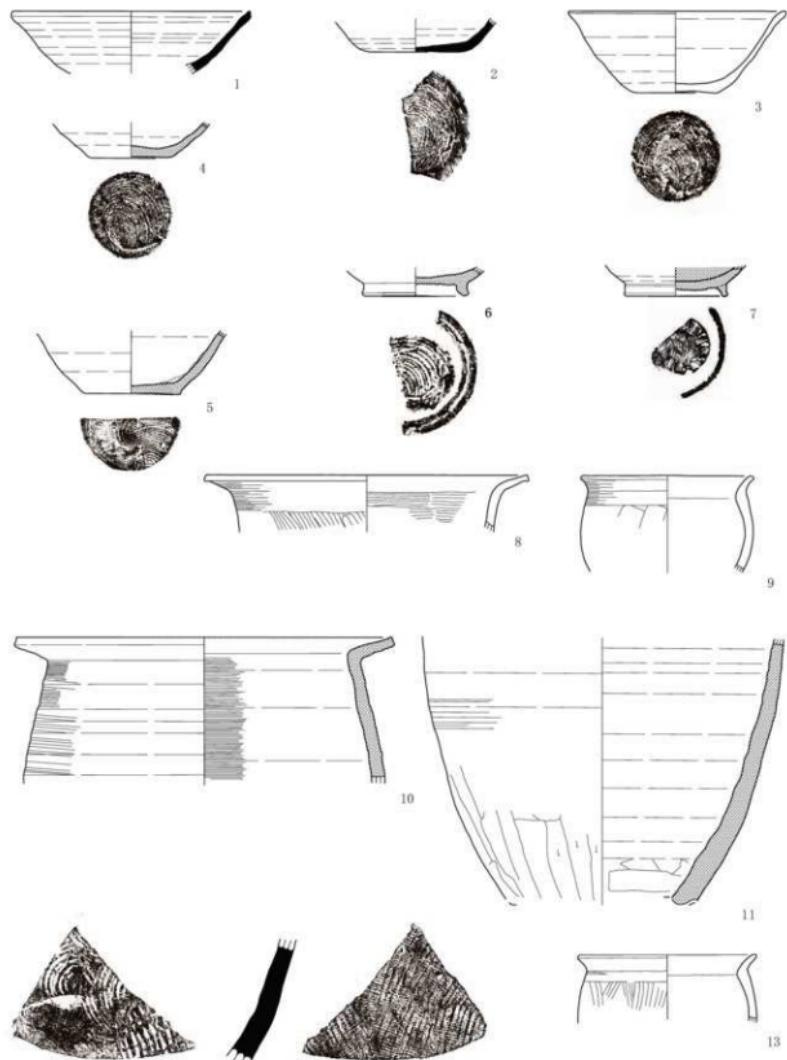
第20図 SI1051



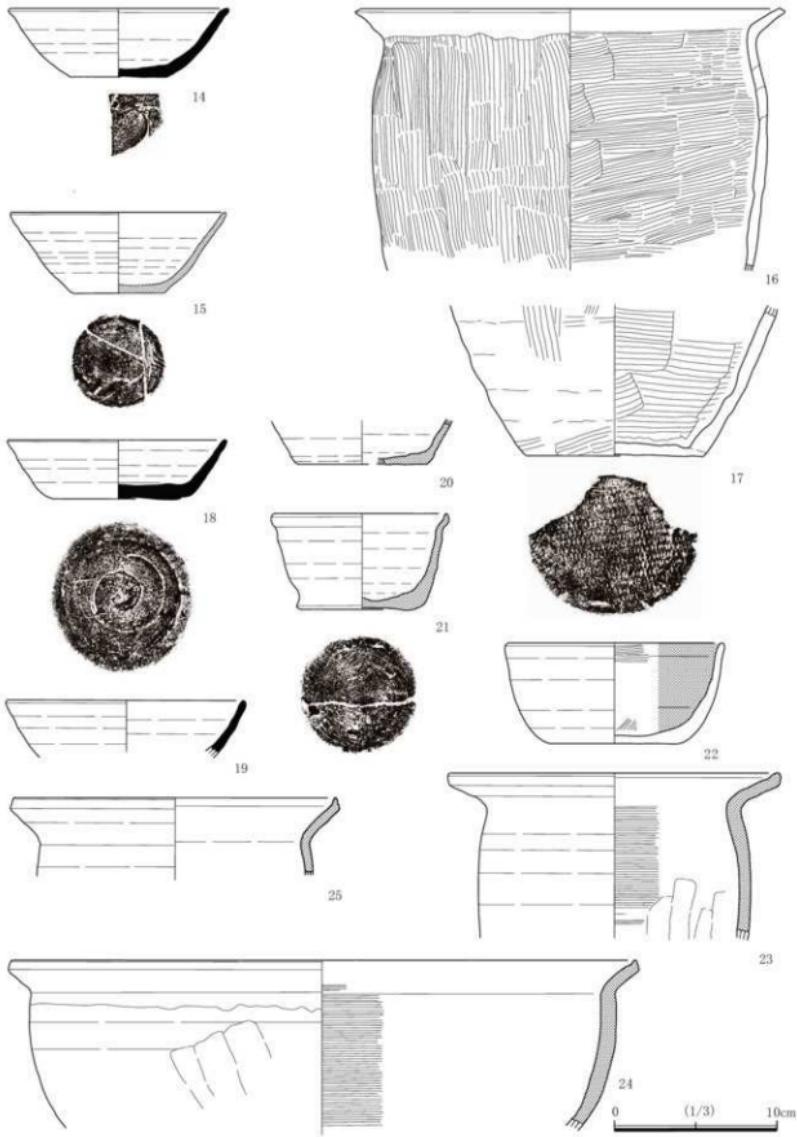
第21図 SA1057、SD1019-567、SK1006-1012-1021～1024、1038～1043



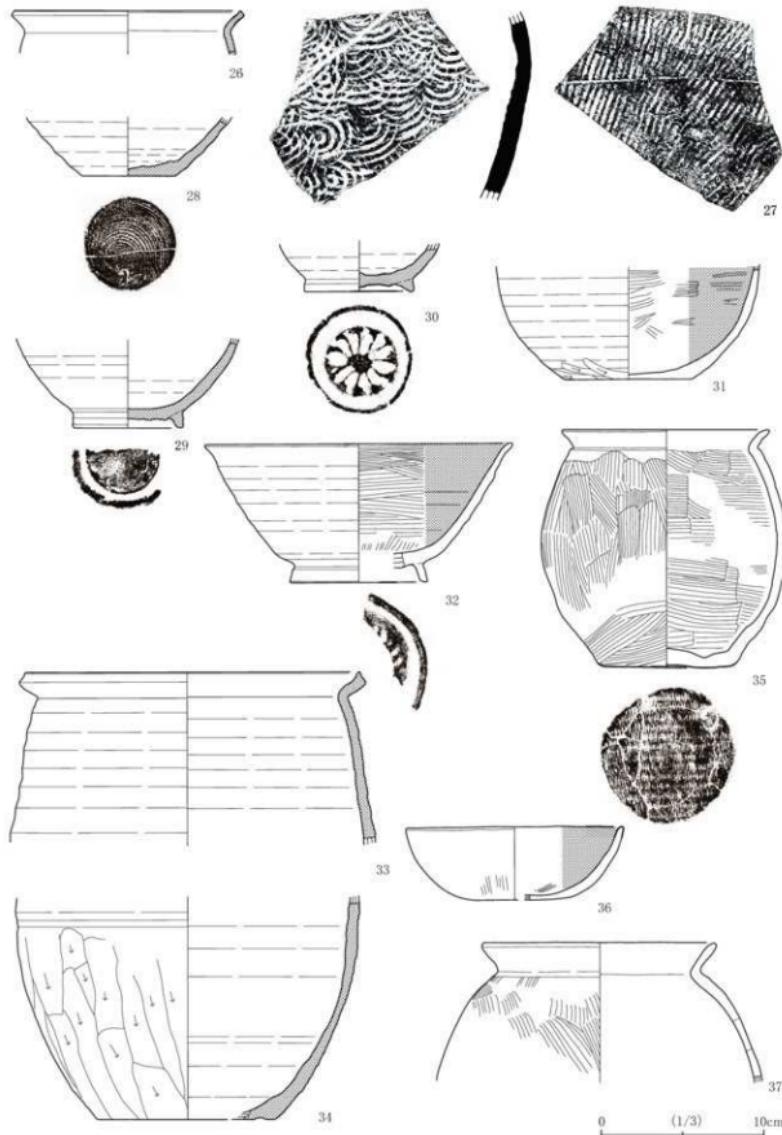
第22図 各ビット



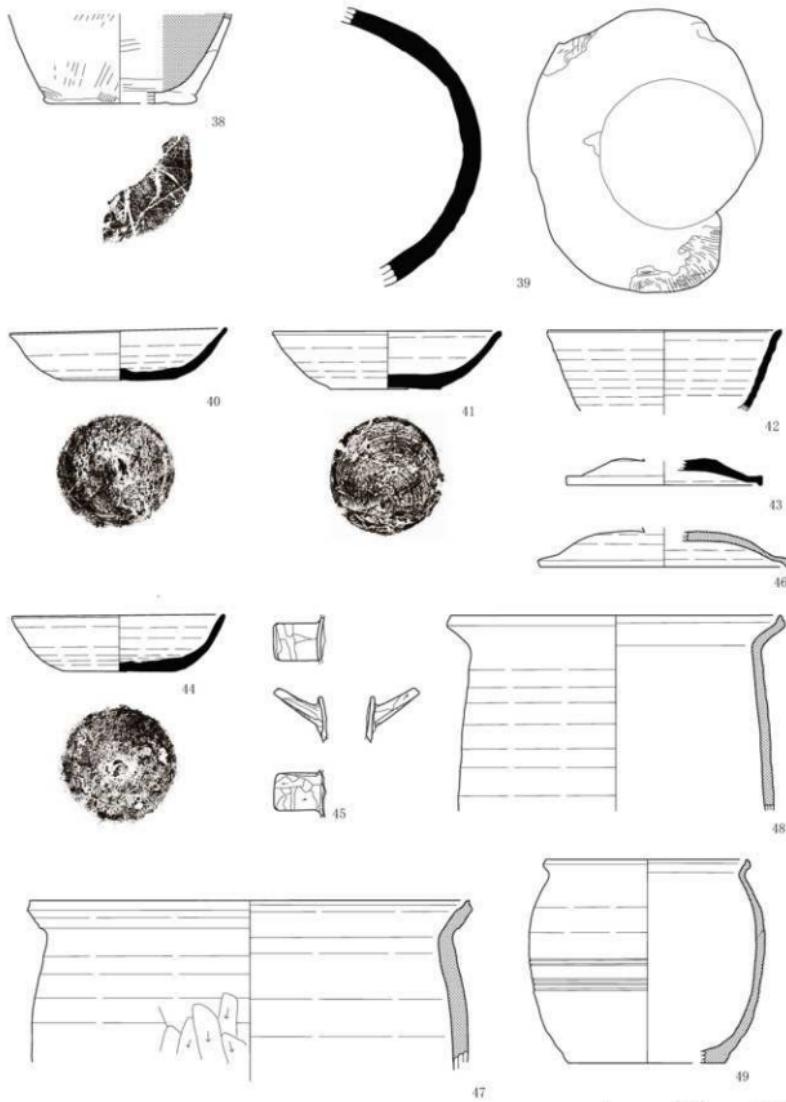
第23図 SI1002出土遺物



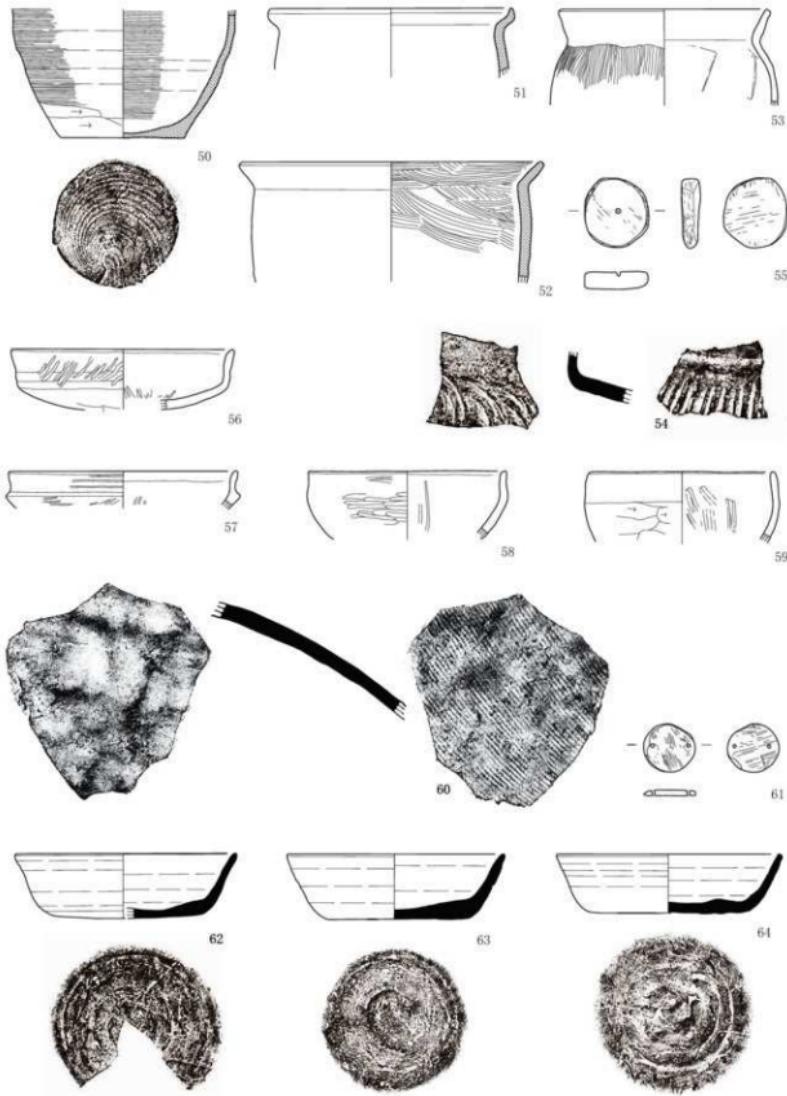
第24図 SI1003・1004出土遺物  
(SI1003-14～17, SI1004-18～25)



第25図 SI1004・1005・SI1029出土遺物  
(SI1004-26・27, SI1005-28～35, SI1029-36・37)

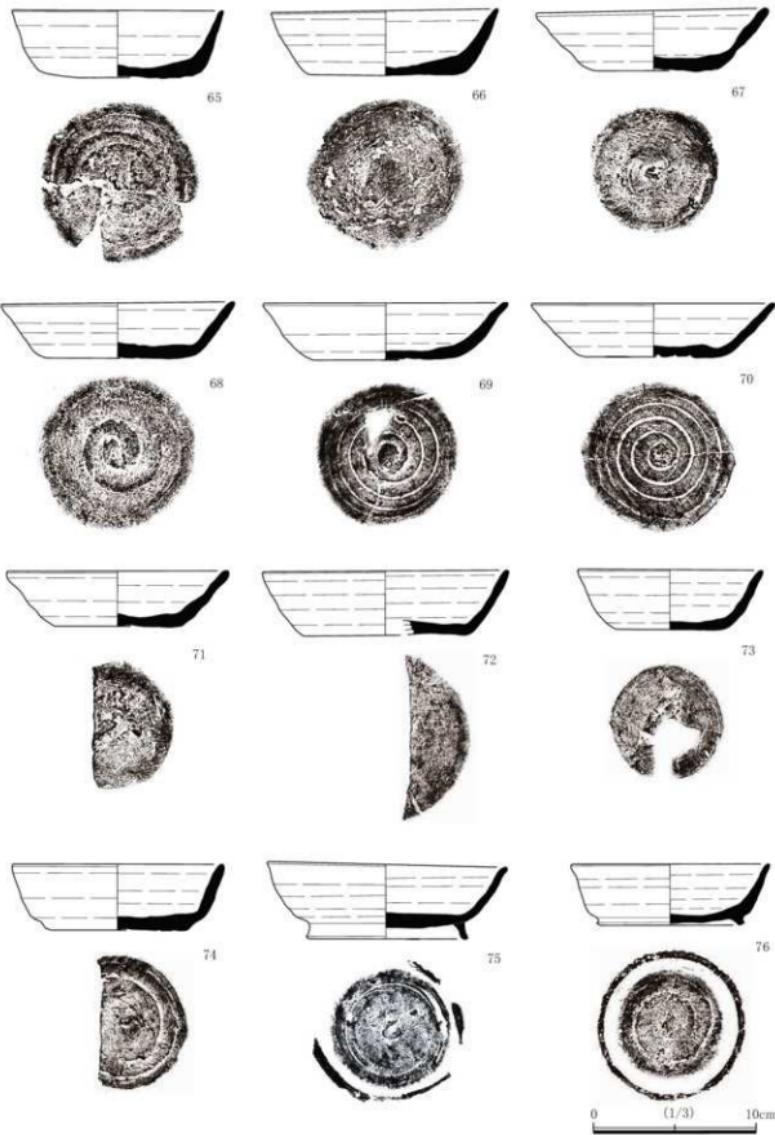


第26図 SI1029・1031出土遺物  
(SI1029-38・39, SI1031-40～49)

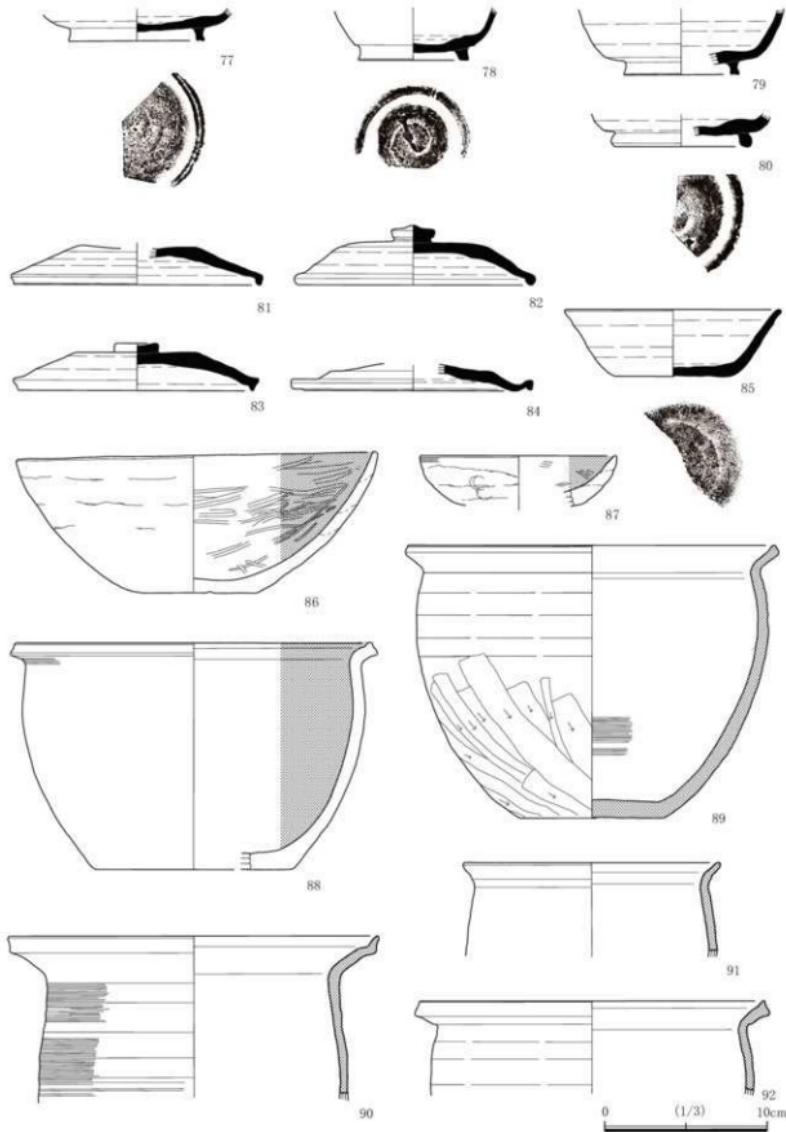


第27図 SI1031～1034出土遺物  
(SI1031-50～55, SI1032-55～61, SI1033-62, SI1034-63-64)

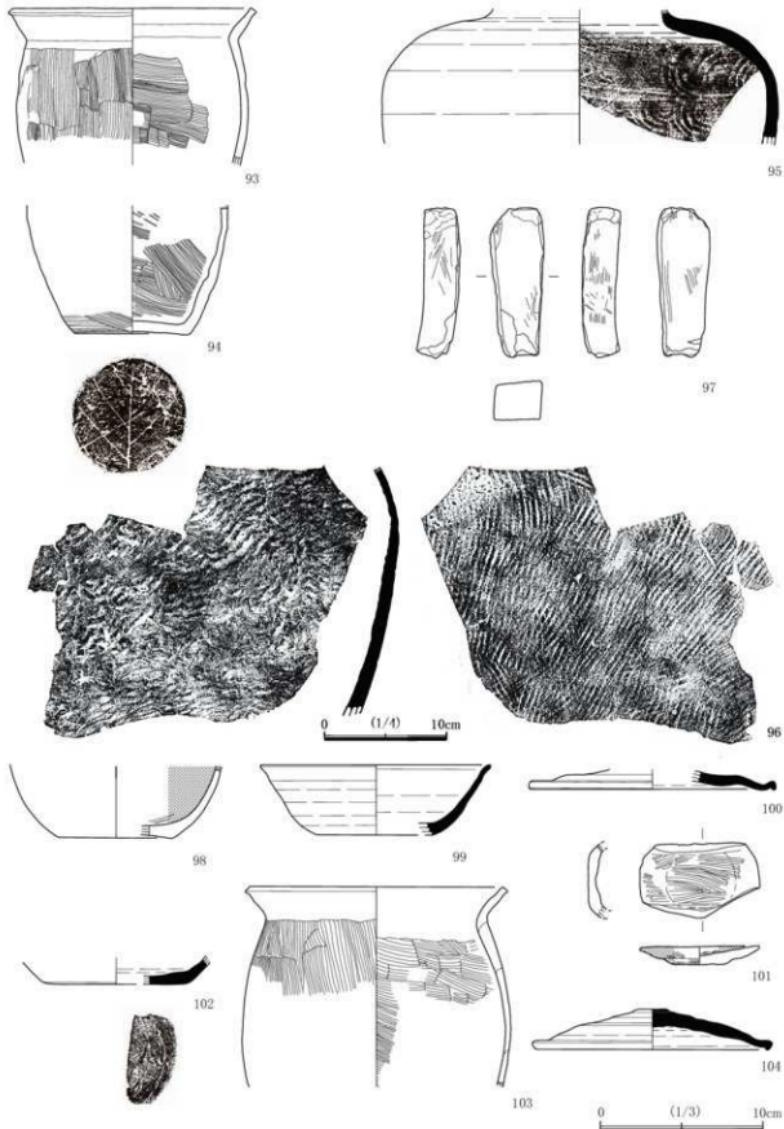
0 (1/3) 10cm



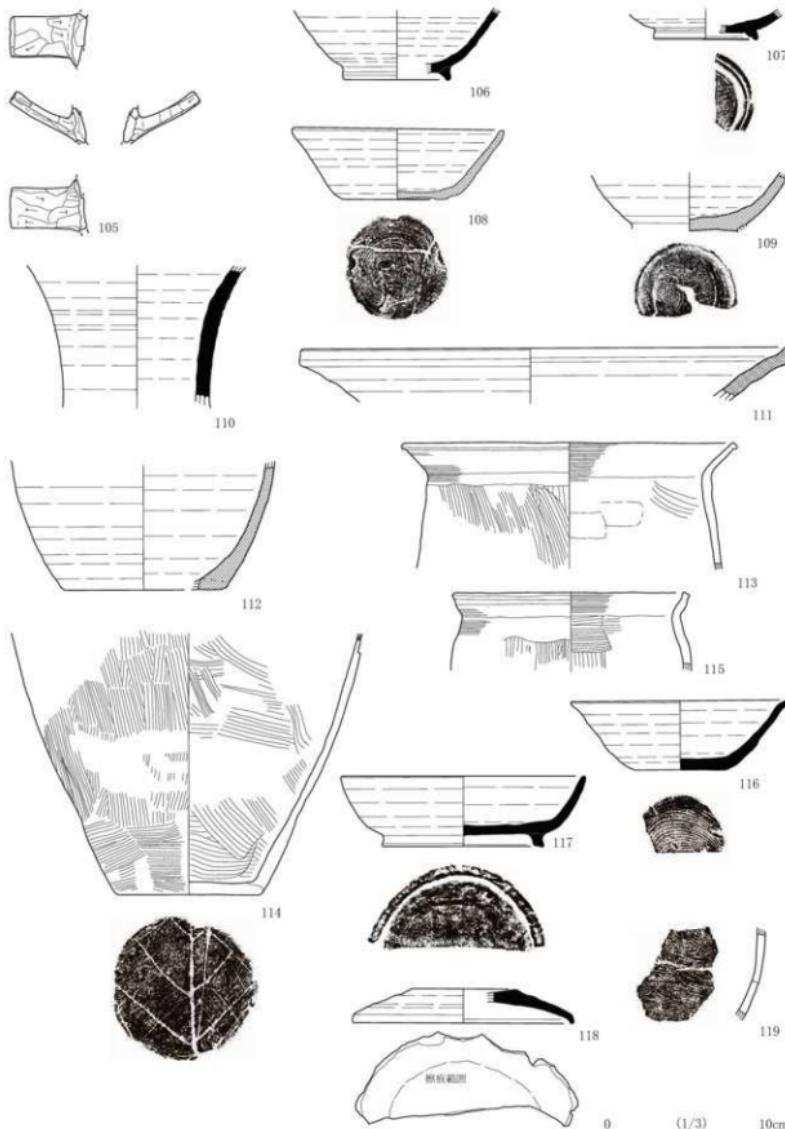
第28図 SI1034出土遺物 (1)



第29図 SI1034 出土遺物 (2)



第30図 SI1034～1036・1051、SD1019出土遺物  
(SI1034-93～97、SI1035-98、SI1036-99～101、SI1051-102-103、SD1019-104)



第31図 SD1019、SK1006-1021-1043、SP1025出土遺物、遺構外出土遺物

(SD1019-105、SK1006-106～111、SK1021-112～114、SK1042-115、SK1043-116、  
SP1025-117、遺構外-118-119)

0 (1/3) 10cm

## 写真図版





調査区南東寄り全景（北西から）



調査区南東寄り全景（南東から）



調査区北寄り 遺構確認状況 全景（南から）



基本堆積土層（B）



S I 1002 全景（北から）

図版2



S I 1002 カマド (北東から)



S I 1002 カマド掘り方 (南東から)



S I 1003 完掘 (西から)



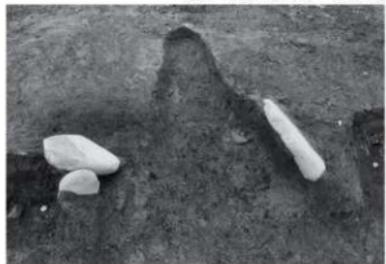
S I 1003 カマド完掘 (西から)



S I 1003 挖り方 (西から)



S I 1004 完掘 (西から)



S I 1004 カマド (西から)



S I 1004 完掘 (西から)



S I 1005 完掘 (南から)



S I 1005 石組 (西から)



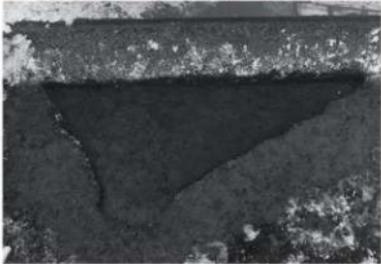
S I 1005 石組 挖り方 (西から)



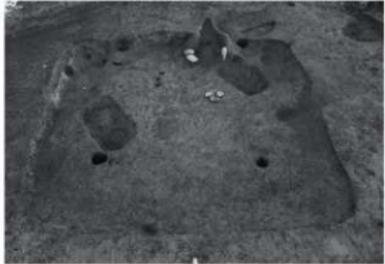
S I 1029 完掘 (南西から)



S I 1029 カマド 完掘 (南西から)



S I 1030 完掘 (東から)

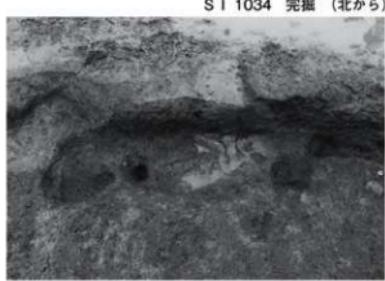
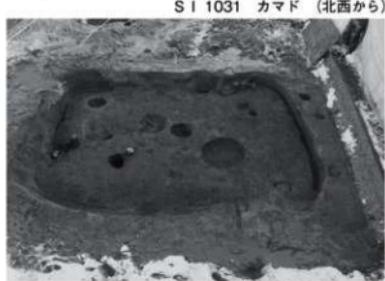


S I 1031 完掘 (北西から)



S I 1031 出土遺物 近景 (北西から)

図版4





SD 1019 完掘 (南から)



SK 1006 遺物出土状況 (北東から)



SK 1012 完掘 (西から)



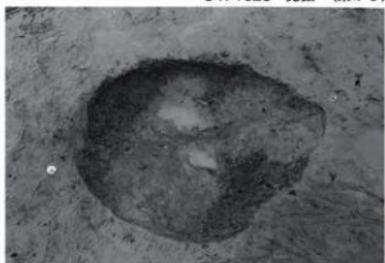
SK 1021 遺物出土状況 (南から)



SK 1023 完掘 (東から)



SK 1039 完掘 (西から)

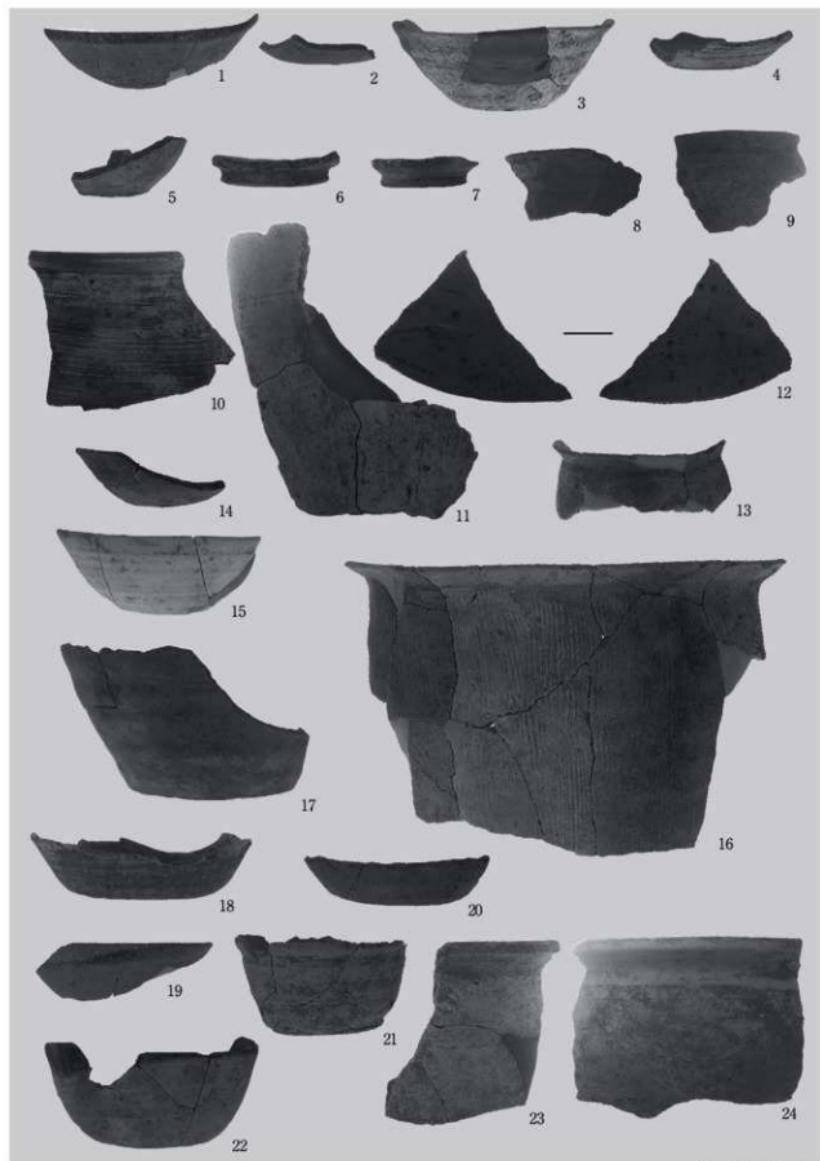


SK 1042 完掘 (西から)



SK 1043 完掘 (東から)

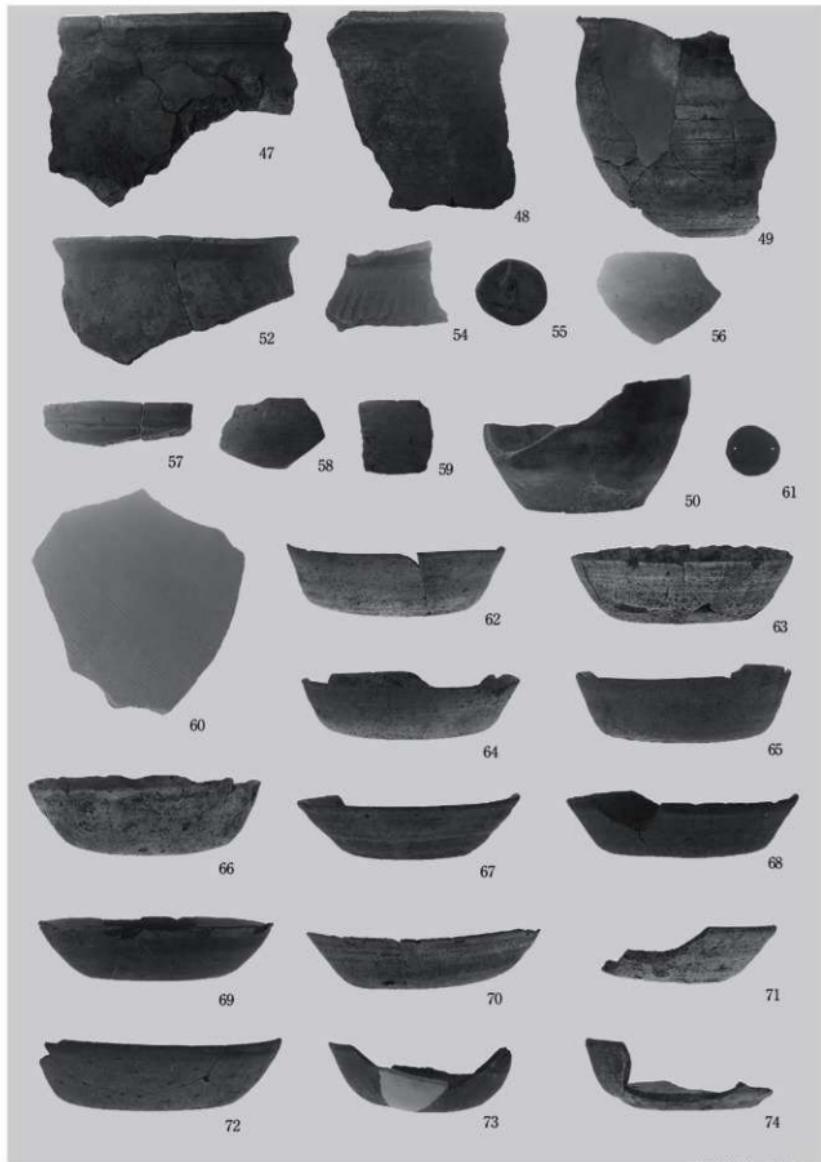
図版 6



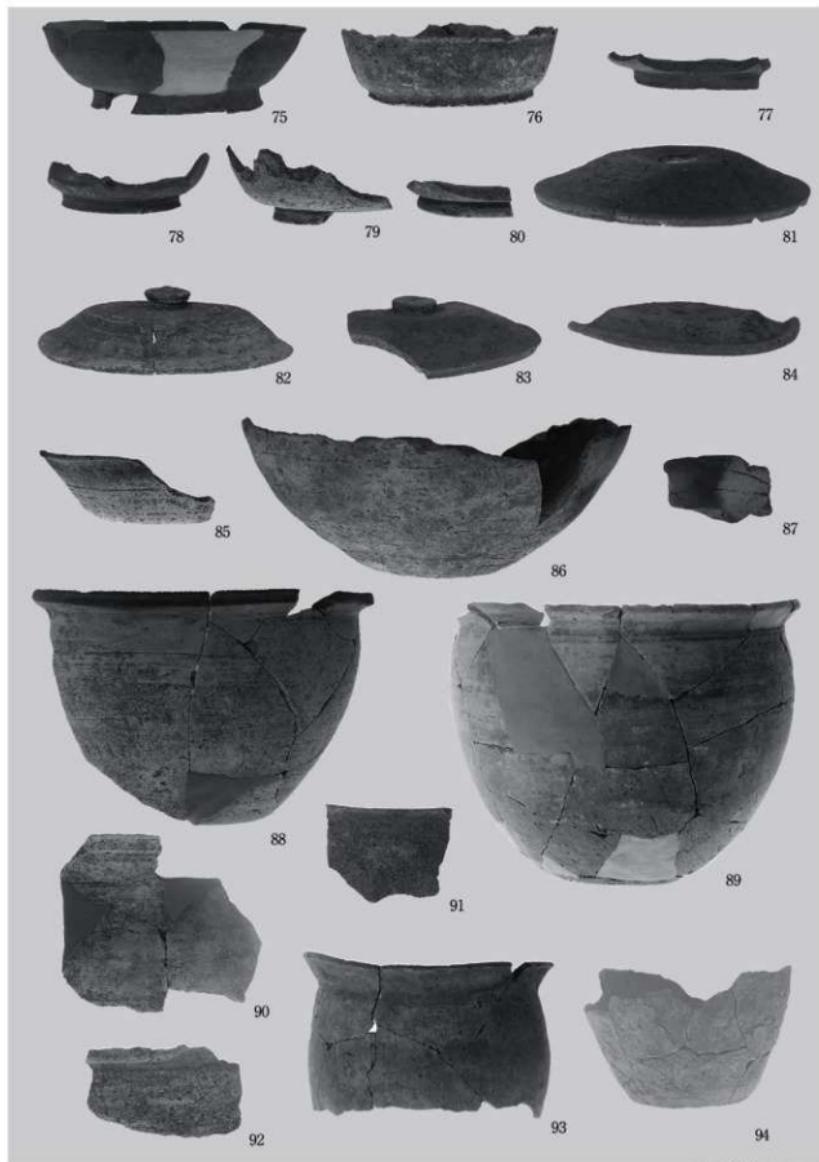
出土遺物（1）



出土遺物（2）

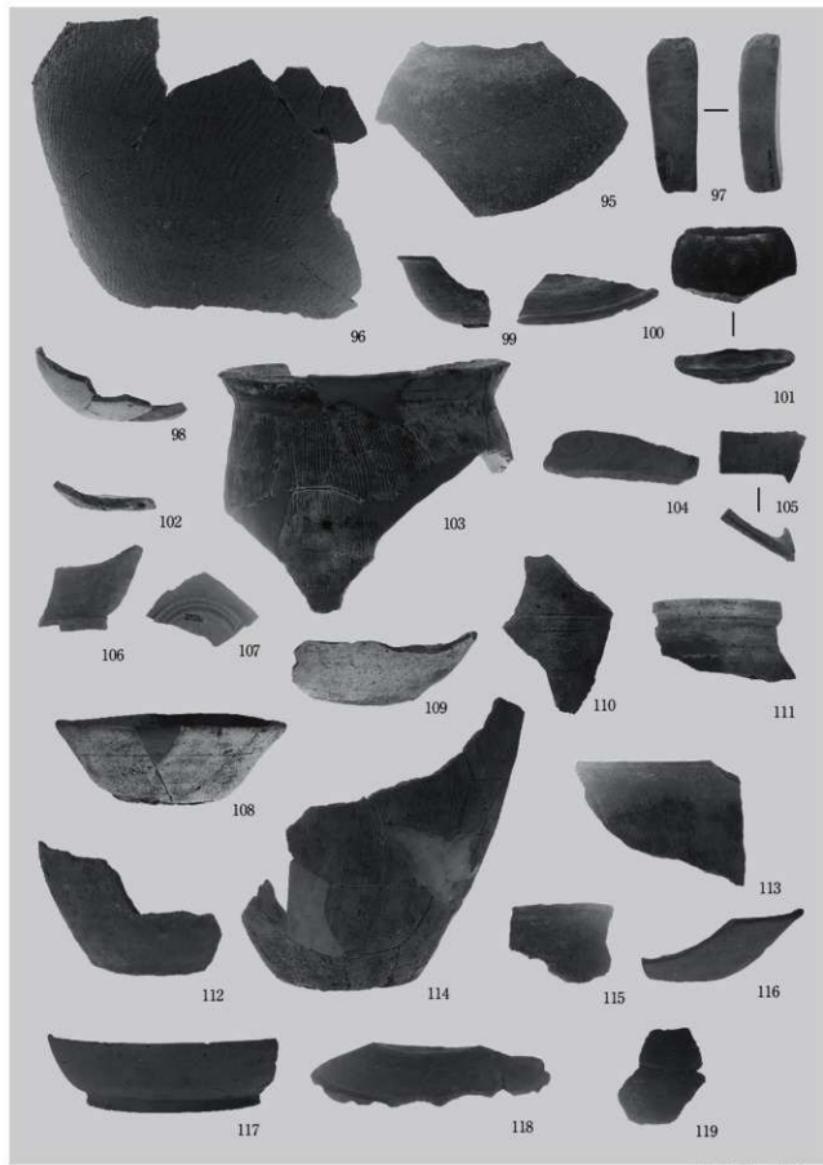


出土遺物（3）



出土遺物（4）

図版 10



出土遺物（5）

報告書抄録

ふりがな 書名	きたむかえいせきはつくつちょうさほうこくしょ 北向遺跡発掘調査報告書						
副書名 卷次							
シリーズ名 シリーズ番号	山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第27集						
編著者名 編集機関地	桐谷 優 長谷川一郎 國井 修 山形考古学研究所 〒286-0045 千葉県成田市並木町221番地 TEL 0476-24-0536						
発行機関地 発行年月日	山形市教育委員会 〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3番25号 TEL 023-641-1212 2006年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
北向	山形県 山形市 大字風間 字北向・ 大字青柳 字一本木	6201 平成3年 度新規	38度 18分 5秒	140度 22分 0秒	20051031 → 20051228	900	市道橋山小学校正門線道路改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
北向	集落跡	古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡 14棟 柵列 溝跡 土坑 ビット	1条 2条 12基 27基	須恵器 赤燒土 石 師 器 品		
						総出土箱数 10箱	



---

---

山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第27集

北向遺跡発掘調査報告書

2006年3月31日発行

編集 山武考古学研究所

千葉県成田市並木町221

TEL 0476-24-0536

発行 山形県教育委員会

山形県山形市旅籠町2-3-25

TEL 023-641-1212

印刷 株式会社文化総合企画

千葉県富里市日吉台1-23-12

TEL 0476-93-0593

---